特 66 477

初級 軍中必携

緒言

騎兵、歩兵、輜重兵、砲兵、工兵、衛生兵、諸君ノ弾薬車ヨリ被服庫ナリ糧食庫ナリ書籍館ナリ雑囊ナリ背嚢ナリ此諸有庫ヲ携ヘ行軍ニ上ル際唯一冊ノ小冊子ト雖モ苟モ直接必要ナラサル事項ノミヲ欲スル者アラン本書ハ改定興亡演習或ハ戦闘ニ臨ミテ己カ負担シ長途ノ行軍ニ上ル際唯一冊ノ小冊子ト雖モ苟モ直接必要ナラサル事項ノミヲ欲スル者アラン本書ハ改定興亡

書籍館

今次範囲草案ニ過ギス専ラ下級幹部諸君ニ必要缺ク可カラサル事項ノミヲ記述セリ諸君ノ所謂書籍館中唯此一本ヲ蔵セヲ背嚢ノ重量軽減ノ一助ニ資シ幸ニ益ス所少ナラサルヘシ

明治四十年十月

軍事雑誌社編輯部識

初級幹部 陣中必携

第一編

第一章　命令報告

第一節　地名ノ指示　一丁

第二節　時間ノ指示　一丁

第三節　部隊ノ指示　二丁

第四節　方向ノ指示　三丁

第五節　小部隊ノ命令及其例　二丁

第六節　報告及其例　五丁

第七節　命令ノ筆記術　八丁

第二章　傳令　一丁

第三章　畧圖
第一節　畧圖ノ目的　一五丁
第二節　畧圖ヲ調製スル場合　一五丁
第三節　畧圖ノ價値　一五丁
第四節　畧圖調製法　一六丁
第五節　畧圖ノ注意及記入スヘキ件　一六丁
第四章　行軍警戒　一九丁
第一節　前衛ノ任務　二九丁
第二節　前衛ノ區分　一九丁
第三節　後衛ノ任務　二〇丁
第四節　後衛ノ區分　二〇丁
第五節　側衛ノ任務及其掩護法　二一丁

第六節　側衛ノ區分　二一丁
第七節　尖兵長ノ動作　二一丁
一　尖兵長出發ニ當リテ爲スヘキ處置　二三丁
二　尖兵ノ隊形　二三丁
三　尖兵長ノ運動　二四丁
四　尖兵長ノ報告　二四丁
五　尖兵敵ト遭遇セシ時ノ處置　二四丁
第八節　連絡兵ノ動作　二五丁
第五章　斥候　二七丁
甲　行軍斥候一般ノ心得　二七丁
乙　敵ニ對スル心得　二九丁
丙　斥候ノ隊形　三一丁

丁　地形ニ對スル心得
第六章　前哨
第一節　前哨ノ任務　三一丁
第二節　前哨ノ注意　三五丁
第三節　前哨ノ區分　三五丁
第四節　前哨ノ警備　三五丁
第五節　小哨ニ於ケル下士ノ任務　三五丁
第六節　獨立下士哨長　三七丁
第七節　下士哨　三八丁
第八節　歩哨ノ任務　三八丁
第九節　歩哨ノ守則及注意　四〇丁
第十節　前哨ノ斥候　四一丁
第十一節　銃前哨　四二丁
第十二節　巡察　四六丁
第七章　行軍
第一節　兵卒ノ心得　四九丁
一　行軍中ノ注意　五〇丁
二　休憩間ノ注意　五一丁
三　宿營間ノ注意　五一丁
四　靴傷糊ノ製法及靴傷油　五三丁
五　行軍出發前ノ注意　五四丁
第二節　行軍風紀上分隊長ノ注意　五五丁
第三節　行軍ノ種類　五五丁
第四節　行軍隊形及速度　五七丁

第八章　宿營
第一節　宿營ノ種類　六一丁
第二節　舍營ト露營ノ利害　六一丁
第三節　舍營中兵卒ノ心得　六二丁
第四節　舍營中宿舍長ノ任務及宿札ノ書方　六二丁
第五節　舍營ノ勤務　六三丁
第六節　舍營日直下士ノ業務　六五丁
第七節　風紀衛兵　六五丁
第八節　外衛兵ノ任務　六六丁
第九節　設營隊ノ動作　六六丁
第十節　警急舍營ノ心得　六八丁
第十一節　駐留舍營ノ心得　六九丁
第十二節　滞在日ノ業務　七〇丁
第十三節　警報ノ處置　七〇丁
第十四節　露營　七一丁
一　露營地撰定ノ要旨　七一丁
二　露營中兵卒ノ注意　七一丁
三　露營ノ設備　七二丁
四　露營ノ勤務　七三丁
五　風紀衛兵　七五丁
六　警報及出發　七五丁
第九章　給養　七六丁
第一節　給養ノ種類　七七丁

第二節　軍人軍屬一日ノ食糧　七七丁
第三節　携行糧秣ノ區分　七七丁
第四節　携帶口糧ヲ使用スル場合　七七丁
第五節　徵發給養　七八丁
第六節　飯盒自炊法　七九丁
第七節　糒ノ使用及鑵詰使用法　七九丁
第八節　演習間待遇報告ノ例　八〇丁
第十章　彈藥補充　八三丁
第一節　兵卒彈藥使用上ノ注意　八三丁
第二節　分隊長ノ任務　八四丁
第十一章　鐵道及船舶輸送　八五丁
第一節　鐵道輸送　八五丁

第二節　船舶輸送　八七丁
第十二章　衛生　九一丁
第一節　衛生勤務　九一丁
第二節　救急法　九二丁
一　創傷　九二丁
二　止血法　九五丁
三　繃帶包　九七丁
四　急病　一〇〇丁

第二編

第一章　戰鬪

第一節　各個散兵　一〇五丁

第二節　射擊軍紀　一〇五丁

第三節　射擊速度　一〇六丁

第四節　射擊種類　一〇六丁

第五節　中隊ノ散開　一〇七丁

第六節　中隊大隊ノ基本隊形　一〇九丁

第七節　歩兵ノ性能及戰鬪手段　一〇九丁

第八節　散開及密集隊形ノ利害　一〇六丁

第九節　中隊ノ戰鬪正面　一一〇丁

第十節　戰鬪間少隊長ノ任務　一一二丁

第十一節　戰鬪間分隊長ノ任務　一一二丁

第十二戰　戰鬪間兵卒ノ動作　一一三丁

第十三節　各兵種ニ關スル動作　一一五丁

第二章　射擊

第一節　射擊上天候及光線ノ感及　一一七丁

第二節　側方ニ移動スル目標ノ照準點　一一七丁

第三節　三十八年式歩兵銃性能　一一八丁

第四節　距離測量　一二〇丁

一　距離名稱　一二〇丁

二　音響測量　一二一丁

三　目測ヲ誤ル場合　一二一丁

四　各距離ニ於ル軍隊目視　一二三丁

第五節　戰鬪射擊
一　各個戰鬪射擊ニ於ル要求　一二三丁
二　目標撰定　一二三丁
三　目標ノ分記　一二四丁
四　照尺ノ撰定及照準點　一二四丁
五　兵卒ノ射擊目標ニ對スル心得　一二五丁
六　指揮官ノ射擊指揮ニ對スル心得　一二六丁
七　分隊長ノ指揮法　一二六丁
第三章　工事　一二六丁
第一節　工事ノ目的　一二七丁
第二節　陣地ノ撰定　一二七丁
第三節　作業ノ準備　一二七丁
第四節　作業力　一二八丁
第五節　作業法　一二九丁
第六節　散兵壕ノ配置數　一三〇丁
第七節　人工障碍物　一三二丁
第八節　編束物　一三二丁
第九節　被覆ノ種類　一三二丁
第十節　鐵道ノ破壞　一三三丁
第十一節　渡渉場ノ偵察及通過法　一三四丁
第十二節　氷上通過　一三五丁
第四章　方位及偵察　一三五丁
第一節　方位ノ考察　一三七丁
第二節　道路ノ偵察　一三七丁
一三八丁

第三節　宿營地ノ偵察　一三八丁
第四節　露營地ノ偵察　一三九丁
第五節　橋梁ノ偵察　一三九丁
第六節　河川ノ偵察　一四〇丁
第五章　編成　一四一丁
第六章　秋季演習ニ關スル要件　一四三丁
一　標識　一四三丁
二　機動演習ノ種類　一四四丁
三　演習余般ノ中止及再興　一四四丁
四　危害ノ豫防　一四六丁
附錄　軍隊符合　丁
陸軍常備團隊配備表　丁

第一編

第一章　命令報告

命令報告ハ簡明確切ニシテ常ニ其時間ニ投合セサル可ラス而シテ發送スルニ先タチ如何ニ受領者ノ了解スルヤヲ身ヲ其者ノ位置ニ置テ熟考點檢スルヲ要ス尚書類鮮明ニ筆記シテ光明不充分ノ時ニ於テモ通讀シ易カラシムヘシ

第一節　地名ノ指示

地名ハ明瞭ニ記シ地圖ハ同文字ヲ用ユルヲ要ス

字又ハ俗稱ニテモ地圖ニ記載サルヲ之ヲ用ユレハ地點瞭明トナルトキニ於テモ先ツ地圖ニ記載アル者ヲ記シ其下ニ括弧ヲ置キ俗稱何々ト記ス

ヘシ

讀ミ難キ地名ニハ傍訓ヲ附スヘシ（我孫子飯富）（ヒコナフ）

道路ハ疑無キ街道（中仙道東海道）ノ外ハ二個ノ地名ヲ以テ記スヘシ

（山北村ヨリ小山町ニ至ル道路）

第二節　時ノ指示

年ヲ略スルコト

時刻ニハ必ス午前午後ヲ冠スルコト

全夜ニ亘ル事件ニシテ夜ノ字ヲ用ユルヲ要スルトキハ單ニ某日ノ夜ト記載スルコト

夜ノ字ヲ冠スル時刻ハ黄昏ヨリ拂曉マテヲ稱ス

第三節　部隊ノ指示

横ニ廣キ部隊ヲ指示スルニハ右翼ヨリ漸次ニ左翼ニ及ホシ次ニ後方ニ

及ホス者トス

距離トハ前後ヲ云ヒ間隔トハ隔リヲ云フ

隊號ヲ略稱スルニハ例令ハ近衛歩兵第四聯隊ト云ヲ近歩四ト略スルカ如シ

第四節　方向ノ指示

前後左右此方彼方ハ其語明瞭ナルトキモ尚ホ能ク注意スルヲ要ス

右側左側右翼左翼ノ語ハ敵ニ面シテ稱スルモノナリ

東西南北ヲ以テ方向ヲ指示スレハ明瞭ナリ

第五節　小部隊ノ命令

野外要務令ニ在ル作戰命令ハ師團ヲ基礎トシ有レトモ小部隊ニハ之ヲ酌酌シテ左ノ如ク示スヲ要ス

一、敵情及連係部隊ノ動作

二、我本隊ノ目的
三、我レノ受ケシ任務
四、部下ノ分擔任務
五、規約

小斥候ノ如キハ更ニ略シ口頭ヲ以テ左ノ通リ指示スヘシ

一、敵ノ有様
二、派遣セラレタル本隊今後ノ動作
三、我カ爲サントスル目的
四、約束

例

小隊命令　六月十日午後一時　於山澤村

一、敵ハ駒止村（此處ヨリ三里東方）ヨリ西進シ午前十時其斥候ハ大

田村東端ニ達セリ

大隊ハ此附近ニテ敵ヲ防禦セントス

三、小隊ハ大隊ノ左翼ヲ掩護スル爲メ坪坂村ニ向ヒ前進セントス

四、甲田上等兵ハ路上斥候トナリ荒岩雲井ヲ經テ前進セヨ

小隊長　某

斥候長ノ口達命令

敵ハ楠ヶ谷ヨリ坪井ニ亘リ前哨ヲ張リツヽ有ル只今カラ中隊ハ此附近ニ前哨中隊ト成リ位置ス自分ハ斥候長トナリ山水村東端ニ至リ中隊ノ配布終ル迄停止シ前方ヲ監視セントス若シ途中連絡ヲ失シタラ神山神社ニ集ル可シ

第六節　報告

報告上注意スヘキ件大略左ノ如シ

一、報告者自ラ目擊セシコト他人ノ見聞セシコト又他人ニ問テ得タルコトトヲ判然區別スルヲ要ス其推測ニ係ルコトハ理由ヲ示スヘシ

二、彼我ニ關スル過去現在ノ狀況

三、報告者ノ方ニ爲サントスル處置

四、報告ハ時機ヲ誤ラサルヲ要ス機ヲ失シタル報告ハ無効ナリ又無根ノ報告ハ軍機ヲ誤ル大罪ヲ犯スモノナリ

五、報告ニハ員數時刻及位置ヲ記載スルハ必要缺クヘカラサル要件トス

例令ハ敵ノ一縱隊ト記ストキ其下ニ括孤ヲ置キ約歩兵何大隊砲幾門ト記シ又何時何地ニ於テ何方向ヘ行進スル敵ノ縱隊ノ先頭又ハ隊尾ヲ見シト云フコト緊要ナリ

六、一定ノ時間中形勢ノ變化ナク若シクハ敵ノ占領ヲ豫想シタル其地

方ニ未タ敵兵ヲ見サル等ハ報告スルヲ要ス

報告ノ例

第一下士斥候報告

一、當斥候カ午前十時西山村東端ニ達セシ時敵ノ騎兵三名ヲ擊退シ五月廿日午前十時三十分於山中村東端山中村ニ達セシ時敵ノ歩兵一小隊東ヨリ東山村ニ前進スルヲ見ル

二、土民ノ言ニ依レハ本朝敵ノ歩兵三四千人砲六門南澤町ヲ出發シ中山道ヲ前進セリト

三、當斥候ハ二名ノ監視兵ヲ殘シ尙北安村方向ヘ轉進シ搜索ヲ續行セントス

兵卒口頭ノ例

小哨長殿第二下士哨報告

軍曹某

今ヨリ五分前歩哨線ノ前方ニ二三發ノ銃聲ヲ聞ク續テ我騎兵二三歩哨線前ニ退却シ來リマシタ多分敵ノ歩兵カ前進シ來ルト思ヒマス

第七節　命令ノ筆記術

凡ソ下級幹部ハ上級者ノ命令ヲ筆記スル場合少ナカラス故ニ下級幹部ハ命令ノ筆記ヲ迅速ニ且ツ正確ニ認メルコトノ練習ヲ要ス

命令ヲ讀聞セラルル時ハ能ク意味ヲ味ヒ不審ノ箇所ハ全部書キ終リタル後聞キ正スヘシ

清書スルニ誤字脫字ナキ樣注意スヘシ

隊號時間人員等ハ左ノ記號ヲ用ユルヲ可トス

D（師團）　B（旅團）　R（聯隊）　i（歩兵）　P（工兵）　K（騎兵）

A（砲兵）　F（敵）

近衛師團命令　（近D令）

旅團命令　（旅令）（又ハB令）

近衛騎兵第一中隊　（GKノ一中）

午前六時三十分　（前ノ六半）

午後十時廿五分　（後ノ25/10）

三百七十八人　（三七八人）

師令　五月六日後八半　於山崎町

一、FノKハ昨日遲ク小山町ニ侵入セリ

二、Dハ本夜山北町ニ露營セントス

三、諸隊ハ左ノ如ク舍營スヘシ

i ノ一聯　太田町

i ノ二聯　山田町

舍營司令官　某

Kノ一中　　舟水村
Aノ一、Pノ一中　　岩塚村
四、後ノ30/9命令受領者ヲ出セ

師團長　某

第二章　傳令

自己カ傳令ヲ發スル場合ト傳令トナル場合トニツアリ須ク左ノ要件ニ注意スヘシ

傳令ヲ使用スル時ハ再ヒ其傳令ハ歸リ來ラサルモノト承知シ置クコト

傳令ニハ此命令或ハ報告ヲ某ニ傳フヘシ、某道路ヲ經由シ某地ニ行クヘシ、某處ニ歸ルヘシト確切ニ示スヘシ

報告ハ往々途中ニ於テ他ノ司令部ニ知ラシムルヲ適當トスル時ハ傳令使ニ諭示スヘシ

命令ヲ告ヲ敵ニ奪ハルヽ恐アル時ハ豫メ傳達者ニ書中ノ意味ヲ知ラシムルヲ要ス

速度ヲ指示スルコト

速度ヲ指定スルコト

傳令使ハ命令報告ヲ確實ニ傳達セサレハ大ナル間違ヲ生シ爲メニ敎フヘカラサル不利益ヲ來ス源因トナルコトアルヲ以テ最モ戒慎スルヲ要ス

傳令速度（一千米突ヲ通過スルニ要スル）

兵種 ＼ 歩度 ＼ 號令	歩兵		騎兵	
	歩度		歩度	
並	十	速歩	十二分	速歩ト常歩
急	十十	駈歩ト速歩ノ混用	九分	速歩
至急	十十十	脚力ノ耐ユル限リ	七分	馬力ノ耐ユル限リ

自轉車手ニ在テハ其速度ヲ一定スル能ハスト雖モ前二項ノ趣旨ニ準シ遲速ヲ定ムヘシ

自轉車一時間ノ速力大略左ノ如シ

道路良好ナル時	二十八吉米
同　中等ナル時	二十吉米
同　尋常ナル時	十六吉米
同　惡キ時	程度ニ從ヒ益減少ス

夜間ハ其効力著シク減ス

第三章　略圖

第一節　略圖ノ目的

略圖ハ煩雜ナル報告文ヲ單簡ナラシム今試ニ一地點ヲ現ハスニ口頭或ハ筆記ヲ以テスレハ頗ル困難ナリト雖モ圖ニテ示セハ容易ニ爲シ得ヘキナリ

第二節　幹部（下級）略圖ヲ調製スル場合

下級幹部ハ如何ナル場合ニ畧圖ヲ調製スルカ小哨參古下士設營隊道路或ハ河川ノ偵察又ハ獨立下士哨等ニ服務スルモノニ必要ナリ

第三節　略圖ノ價値

略圖ノ價値ハ功妙ヨリ寧ロ明瞭且單簡ナルヲ要ス故ニ必要ナル地物ハ之ヲ詳記シ不必用ナル地物ヲ略スルヲ常トシ梯尺等ハ或ハ線ヲ引キ何百米ト註記シテ可ナリ

第四節　略圖調製法

地物ノ省略又ハ增入法ノ判斷

地圖ノ地物ヲ省略シ又ハ增補スルニハ略圖ノ目的ヲ判斷スルヲ要ス例今行軍ノ爲メ道路偵察ノ略圖ヲ調製スルニハ道路ノ左右ハ可成省略シ道路上ノ景況ヲ詳記シ獨立下士哨ノ爲メニハ歩哨及下士哨ノ附近ハ地圖ニ加フルニ現地目擊スル處ノ地物ヲ加ヘ其他ハ地圖ヨリ省略スルヲ要ス

第五節　略圖ノ注意及記入スヘキ件

一、符合ハ軍隊符合ヲ用ユ

二、鉛筆ハ太ク濃ク且ツ明瞭ニ使用シ光明不充分ナルトキニテモ讀得ルヲ要シ圖上ニ現ハシ得サル件ハ註記ヲ以テス

三、表題（何々村附近獨立下士哨配布略圖等）

四、概略ノ梯尺

五、方向　北↑

六、敵ノ方向（F↑）又ハ其概略ノ位置

七、彼我ノ隊標ハ互ニ相面シ敵ハ赤色我ハ青色

八、部隊ノ運動方向

九、註記符合ハ北ヲ上ニシテ記ス

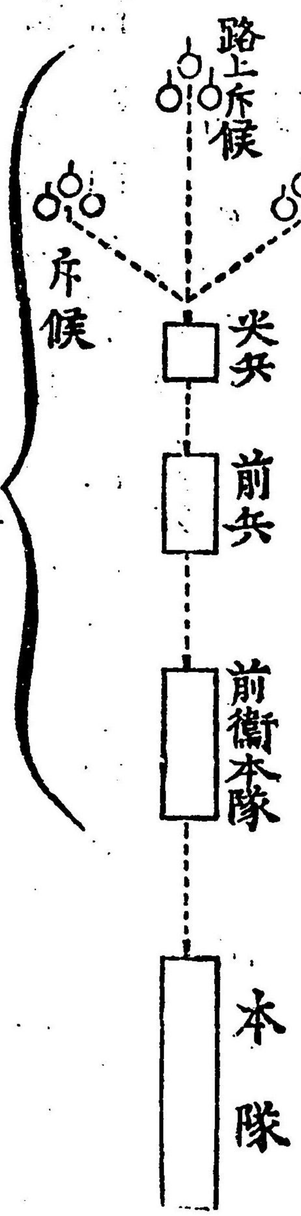
十、作業者ノ隊號姓名等

第五章　行軍警戒

第一節　前衛ノ任務

長延ナル隊形ヲ以テ大道ヲ行進スル軍隊ハ展開ノ爲メ多大ノ時間ヲ要ス故ニ本隊ノ前方ニ警戒隊前衛ヲ設ケ本隊ニ展開時間ヲ與ヘ且僅少ノ障害ヲ除去シ本隊ノ行進ヲ滯滯ナカラシムルニアリ

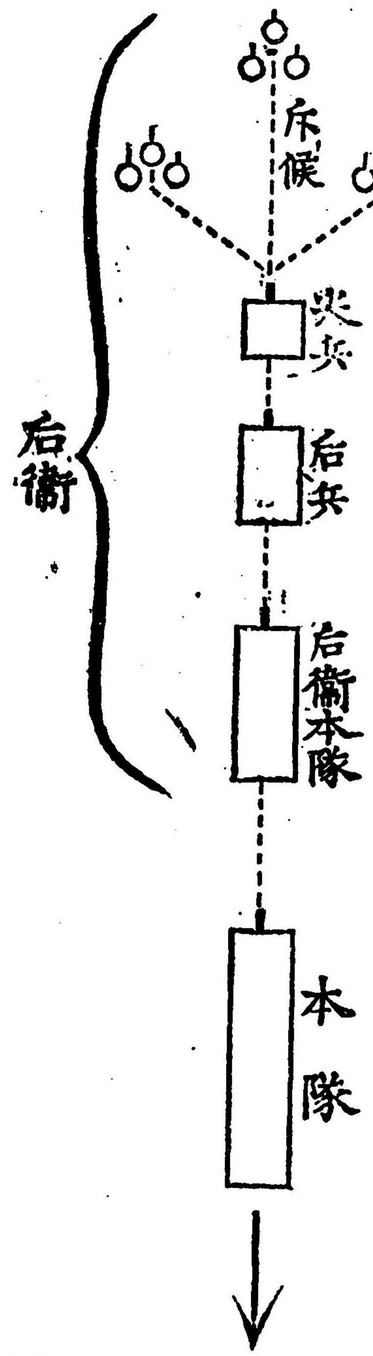
第二節　前衛ノ區分



第三節　后衛ノ任務

后衛ハ敵ヲ背ニシテ行軍スル軍隊カ安全ニ背進スル爲メ敵ヲ支持シ或ハ戰鬪シ或ハ障害ヲ設ケテ本隊背進ノ時間ヲ得セシムルニアリ

第四節　后衛ノ區分



第五節　側衛ノ任務

側衛ハ軍隊側面ニ顧慮ヲ要スル時特ニ側方ニ出ス警戒部隊ナリ

側敵行ノ掩護ニ左ノ三種アリ

一、平行道路ヲ取リ本隊ト並進ス

二、適當ノ陣地ヲ占領シ本隊ヲシテ其背後ヲ通過セシメ以テ本隊ノ側面ヲ掩護ス

三、陽戰ヲ以テ本隊ノ側敵行ヲ敵ニ秘匿ス

第六節　側衛ノ區分

側衛ハ更ニ側方ニ小部隊ヲ分派スルコトアリ而シテ側衛ハ本隊ト全ク前衛后衛ヲ設ケテ行進ス

第七節　尖兵長ノ動作

歩兵ハ行軍ニ當リ最前線ニ在テ警戒スル部隊ニシテ時ノ情況地形ニ應シ

一小隊以上ノ兵ヲ將校ノ指揮ニ屬シ以テ若干ノ抵抗力ヲ備ヘ前方ニ進ム

一ノ斥候群ナリ

一、尖兵出發ニ當リテ爲ハヘキ所置

命令ヲ復唱シ部下ニ情況ヲ示シ本日ハ如何ナル動作ヲ爲セハ可ナルカヲ判斷シ以テ進ムヘシ即チ敵ハ陣地ニ據ルカ遭遇ヲ豫期スルカヲ考定シ動作セサル可カラス

尖兵ノ命令ニハ敵情、任務最初ノ區署、約束ヲ示ス

尖兵長命令　六月十日午前六時　於橋本村東端

一、敵ハ本朝八王子ヨリ我ニ向テ前進シ來ル

大隊ハ前衛ニ任セラレ中隊ハ前兵トナリ此敵ヲ擊攘スル目的ヲ以テ此敵ニ向テ前進ス

二、小隊ハ尖兵トナリ杉山峠ヲ八王子ニ向ヒ前進セントス

三、某上等兵ハ部下二名ヲ引卒シ路上斥候トナレ

四、某上等兵ハ部下二名ヲ以テ右側斥候トナレ

五、第四分隊ヨリ前兵ニ連絡兵ヲ出セ

六、某軍曹ハ路上斥候ノ後方百米ニ在テ小隊ヲ引卒シ來リ余カ手ヲ擧レハ余ノ許ニ一組ノ斥候ヲ送レ

七、余ハ路上斥候ヲ指揮シツヽ行進ス

某　少尉

命令ヲ下シタル後裝塡ヲ了リ行進ス

二、尖兵ノ隊形

通常路上ニ一個ノ斥候ヲ出シ其他ハ必要ニ應シ側斥候ヲ出ス尖兵ノ搜索範圍ハ左右二三百米位ニ過キサルヲ以テ遠ク側斥候ヲ出スヿナシ然トモ必要ニ應シテハ稍有力ナル斥候ヲ某地ニ向テ發シ搜索セシムルヿ

アリ村落又隙蔽地森林等ハ數組ノ斥候ヲ出シ散開ノ隊形ヲ以テ行進ス

三、尖兵長ノ運動

尖候長ハ敏捷ニ動作シ常ニ路上斥候ニ掩護セラレツヽ高地等アラハ駈登リ敵情ヲ迅速ニ視察スルヲ要ス常ニ傳令一名及一二ノ斥候ヲ手許ニ供ヘ必要ニ應シテ派遣スヘシ又尖兵長ハ地圖及雙眼鏡ヲ携帶スルヲ要ス

四、尖兵長ノ報告

尖兵長ハ如何ナル時ニ如何ナル事ヲ報告スルヲ適當トスルカハ規定シ難シト雖モ始メテ敵ノ騎兵ヲ見シ時歩兵ヲ見シ時強大ナル敵ノ部隊ヲ見シ時道路ノ形況ニ變化有ル時等ニハ必ス報告ス可キモノトス

五、尖兵長敵ト遭遇シタル時

敵ト遭遇ヲ豫期シタル時ハ速ニ必要ナル陣地ヲ占領シ前兵ノ來着ヲ掩

護スルモノトス但シ後方部隊ノ展開ヲ妨害セサル如ク注意ス可シ又敵己ニ陣地ヲ占領シ在ル時ハ猥リニ射擊ヲ開始セス某地點ヲ占領シ後方部隊ノ到ルヲ待ツモノトス而シテ斥候ヲ派遣シ敵ノ側背ヲ搜索スルコト肝要ナリ

第八節　連絡兵ノ動作

連絡ハ前方ノ部隊ト後方ノ部隊トヲ連絡シ其行進方向ヲ常ニ相互ノ部隊ニ報シ以テ連絡ヲ絶タシメサルヲ任トス

尖兵ハ常ニ前兵ノ運動ニ從ヒ前兵ニ連絡ヲ保持ス其他ノ連絡兵ハ常ニ前方部隊ニ連絡ヲ計ルヘシ連絡兵ハ一人又ハ二人ヲ以テシ部隊間適當ナル距離ヲ保持シツヽ任務ヲ勤ムルモノニシテ若シ前方部隊岐路ヲ曲ル時ハ駈歩ヲ以テ岐路ニ至リ其行進方向ヲ注視シテ後方連絡兵（部隊）ト連絡ヲ確實ナラシメ然ル後各自舊距離ニ復スル迄駈歩ヲ以テ前進ス而シテ戰

鬪開始シタル時ハ所屬部隊ニ歸還スルモノトス

第五章　斥候

甲　行軍斥候及斥候一般ノ心得

一、斥候ノ任務ハ、敵情或ハ地形等ヲ搜索シテ報告スルニアリ

二、斥候ハ軍ノ耳目トナルヘキモノナレハ其動作ノ如何ニ依リ勝敗ニ多大ノ關係ヲ有スルモノナレハ其責任頗ル重キモノナリ故ニ決シテ忽ニスヘカラス

三、斥候ハ通常三名ニシテ内一名ハ斥候長トナル又下士斥候將校斥候ノ區別アリ

四、斥候ハ其任務ニヨリ更ニ行軍間ノ斥候駐軍間ノ斥候停止斥候戰鬪斥候ノ四ツニ分ツ

五、斥候ハ其長ノ指揮ニ從ヒ決シテ連絡ヲ絶ヘカラス

六、戰備行軍ニ用ユル斥候ニ二種アリ一ハ駐止シ一ハ行動ス

駐止スル斥候ハ例之ハ行進路ノ側方ニアル要點（隘路橋梁渡船場等）ヲ本軍ノ此點ト齎頭面ヲ通過シ終ル迄監視シ此任務ヲ終レハ原隊ヘ歸ル者トス

行進スル斥候ハ本隊（自己ノ隊）前方若シクハ側方ヲ捜索シツヽ行進スル者ニテ其運動ハ迅速ナラサル可ラス

側方ニ出サレタル右側或ハ左側斥候ハ常ニ本道ノ斥候ニ連絡シ勉メテ廣ク綿密ニ捜索スルヲ要ス

七、斥候ニ必要ナル性質ハ機敏ト熱心ト剛膽ト沈着ニアリ機敏ナル斥候ハ未知ノ地ニ於テ能ク其地形方位及通路ヲ知リ熱心ナル者ハ困難ニ堪ヘ沈着及剛膽ナルモノハ不意ノ事ニ驚カス如何ナル危險ニ際シテモ尚能ク其任務ヲ全クスル者ナリ

八、斥候長ハ其任務ヲ確實且ツ明瞭ニ知ルヲ要ス若シ其ノ任務了解シ難キ點アラハ之ヲ質問シ其説明ヲ乞フヘシ而シテ其任務ヲ簡單ニ部下ニ示スヲ要ス是レ止ムヲ得ス離散シタル場合ニ必要ナレハナリ

九、斥候ハ其見聞セシ事柄ヲ命ヲ受ケシ上官ニ報告スヘシ

十、凡テ斥候ハ己レノ身ヲ隱ス爲地物ヲ利用シツヽ躍進スヘシ而シテ敵ニ發見セラルヽコトナク能ク敵ヲ見シコトヲ勉メ敵ノ位置兵員及動作等ヲ探知スルコト必要ナリ

乙、敵ニ對スル心得

一、騎上斥候（本道上ヲ行進スル斥候）ハ尖兵ノ運動ニ從ヒ敵ヲ發見セハ直チニ尖兵長ニ報告シ地物ヲ利用シテ監視スヘシ

二、斥候敵ニ遭遇シ力及ハサルトキハ之ヲ避ケ迂回シテ其後方ヲ捜索ス可シ然レトモ敵兵寡弱ナルトキハ之ヲ捕獲スルヲ計ルヘシ（演習ニアリテハ捕獲ハルヲ嚴禁ス）

三、諸種ノ徵候ニ注意シ敵ヲ發見スルカ或ハ怪シキ音響ハ直チニ記號ヲ以テ其長ニ報告シ一名ハ視察スルカ或ハ音響ノ原因ヲ搜リ要スレハ一名歸リテ其位置兵員等ヲ報告スヘシ何レノ場合ヲ論セス機ヲ失ハス報告スルニ他ノ手段ナキニ非サレハ射擊ス可ラス若シ不意ニ射擊ヲ受クルトキハ速ニ身ヲ隱シ敵ヲ監視ス可シ

四、敵兵退却スルトキハ猥リニ之ヲ追蹤スルコトナク自己ノ任務ヲ續行スヘシ

五、斥候敵襲ヲ受ケ若シ其長ト離レシ時ハ捕獲サルヽコトナク速ニ本隊又ハ集合地ニ歸リ各自ノ見聞セシ事ヲ報告スヘシ

六、戰鬪間危殆ナル側方ニ派遣セラルヽ斥候（戰鬪斥候）ハ常ニ敵ノ運動ニ注意シ敵ノ斥候ノ如キハ之ヲ擊退シ速ニ報告スヘシ

丙　斥候隊形

一、斥候ノ隊形ハ場合ニ應シ地形ニヨリ情況ニ應シ或ハ前後ニ連リ或ハ左右ニ並行シ又ハ三角形トナリテ適宜其距離間隔ヲ保持シ互ニ見失フコト無キ樣注意シ原隊トノ連絡ヲ保チ又同時ニ捕獲セラレサル如ク注意スヘシ

丁　地形ニ關スル心得

一、斥候道路ノ曲折點ニ至レハ其一人進ンテ前方ヲ窺ヒ異狀ナキトキハ行進ヲ持續ス可シ又路上ニ於テ遮障切斷等ノ障碍ニ遇ヘハ速ニ報告ス可シ

二、丘陵若クハ波狀地ニ至レハ一名ハ斜坂ニ登リ巔頂ノ稍後方ニ停止シテ前方ヲ搜索シ他ノ兵ハ之レニ隨行シ中一名ハ報告ニ赴クノ用意ヲナシアルヘシ

三、隘路ニ遇ヘハ意ヲ決シテ之レニ進入シ速ニ其近傍殊ニ出口ヲ搜索ス

ヘシ

四、凹道ヲ通過スルトキハ一名ハ斜坂或ハ頂上ヲ行進ス可シ

五、敵地又ハ敵ノ已ニ通過セシ橋梁ニ遇ハヽ破壞シ非ラサルヤ又爆藥等裝シアラサルヤニ注意シ橋下及橋柱ヲ檢スヘシ

六、生籬障壁凹道ニ潛ミ行キ敵ノ樣子ヲ窺フヘシ

七、森林ニ至ルトキハ其入口及側方ニ通スル道路等ヲ搜索シ迅速ニ出口ニ達スルコトヲ勉ム可シ

八、村落ニ近クトキハ土民ヲ捕ヘ敵情ヲ尋問シ警戒ヲ加ヘツヽ速ニ出口ニ至ルヘシ

九、夜中村落ニ近クトキハ最近家屋ノ樣子ヲ窺ヒ要スレハ其一名家屋内ニ入リ住者ニ事情ヲ尋問シ時宜ニ由リ其一名ヲ拘引ス可シ

十、夜間又ハ濃霧ノ時ハ成ルヘク低地ヲ通過シ屢々停テ耳ヲ地面ニ傾ケ

響音ヲ聞キ若シ足音ヤ蹄音ヲ聞クトキハ身ヲ隱シテ搜索スヘシ又時々高所ニ上ルヲ利トスルコトアリ是レ火光ヲ見響音ヲ聞クニ便ナレハナリ

第六章　前哨

第一節　前哨ノ任務

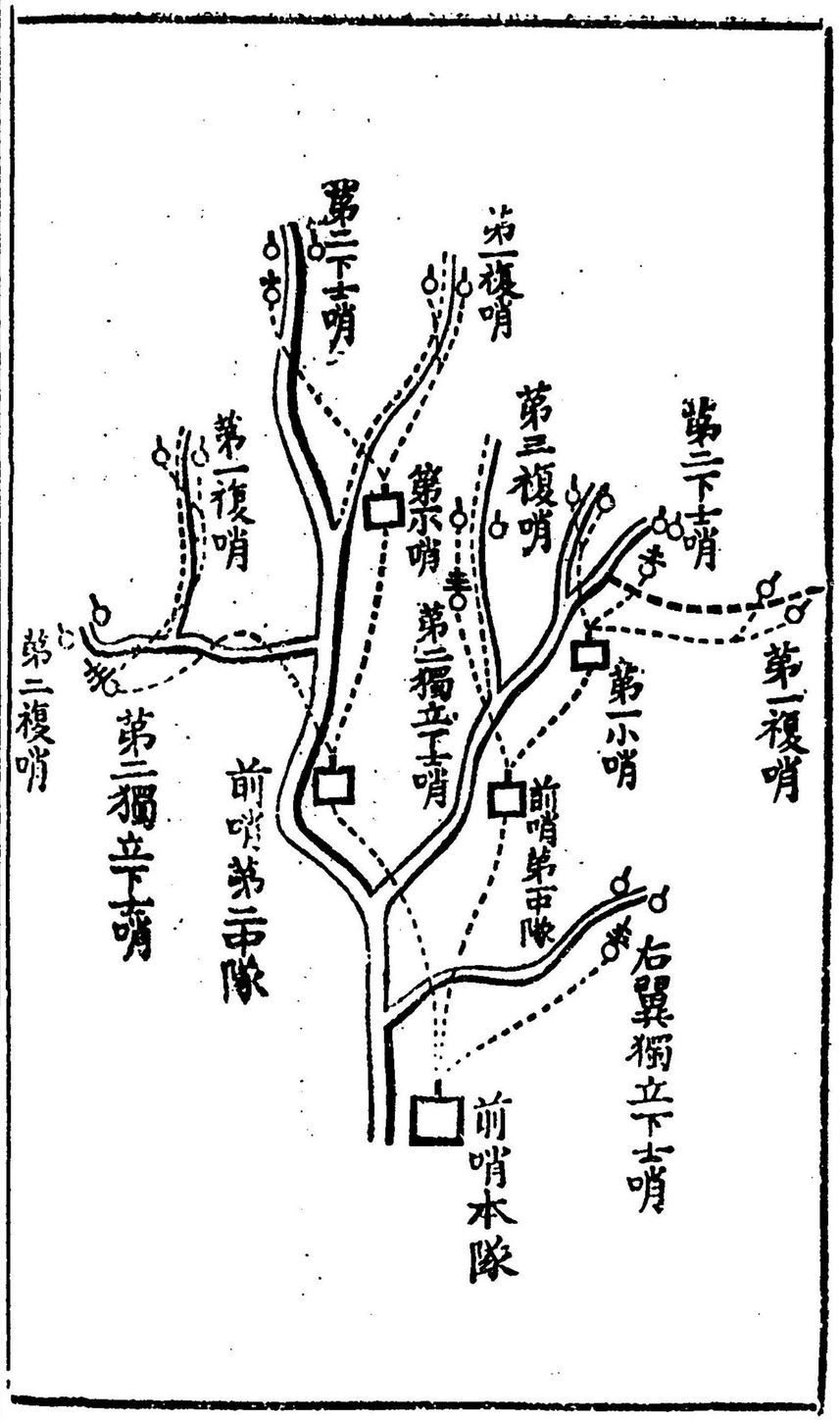
前哨ハ敵ノ情況ヲ搜索シ休止ノ軍隊ヲ警戒スルヲ以テ任トス

第二節　前哨ノ注意

前哨ニ於テ最モ戒ムヲ可キモノハ自ラ戰鬪ヲ求ムルニ在リ蓋シ無益ナル小鬪ハ全隊ノ靜肅ヲ妨害スレハナリ然レトモ一度敵ノ襲擊シ來ルヤ犧牲トナリテ本隊ノ戰鬪準備ヲ掩護セサル可ラス

第三節　前哨ノ區分

前哨ハ前哨本隊前哨中隊及前哨騎兵ヨリ成ル



第四節　前哨ノ警備

前哨本隊

通常背嚢ヲ卸スモノトス

前哨中隊

通常背嚢ヲ卸ス然レトモ一部ハ又銃線ノ後方ニ在テ戰備ヲナシツヽアルモノトス故ニ一人タリトモ許可ナク哨所ヲ離ルヽヲ得ス

小哨

命令アルニアラサレハ背嚢ヲ脫シ又ハ睡眠スルヲ許サス

獨立下士哨

帶革水筒雜嚢ノ如キハ始終脫スルヲ得ス又任務ノ爲カ許可ナク一人モ其哨所ヲ離ルヽヲ得ス時トシテ談話喫煙燈火ヲ禁セラル

下士哨

歩哨ノ後方ニ隠蔽シテ休姿シ在ルニ外ナラス其他歩哨ト仝樣ナリ

第五節　小哨ニ於ケル下士ノ業務

小哨長小哨配布ノ留守中小哨ニ在ル古參下士ハ銃前哨ヲ立ツ可シ又命令ナクトモ斥候巡察雜役等ヲ區分シ又銃ナシ而シテ露營ノ準備ヲ爲ス者トス要スレハ小哨長歸還後報告ヲ出ス爲メノ略圖ヲ報告紙ニ調製シ置クヘシ

又銃ハ歩哨ノ交代兵斥候巡察諸勤務兵ノ區分ニ從ヒ濫リニ兵卒ノ休憩ヲ妨害セザル如クスヘシ

第六節　獨立下士哨長

任務ヲ受領セハ先ツ復唱ヲ爲シ部下ニ敵情任務ヲ口達シ警戒ノ爲メ一組ノ斥候ヲ所要ノ地點ニ派遣シ地圖ニ依リ途中歩哨配置ノ規定ヲ爲シ一哨所六人ヲ其地ニ上等兵アラハ之ニ引卒セシメ歩哨ヲ先遣シ（最初ヨリ歩

哨ノ員數及位置ヲ概定スル能ハサル片ハ自ラ所要ノ人員ヲ引卒シ現地ニテ配置シツヽ守則ヲ與フ）殘哨ハ獨立下士哨ノ位置ニ留置シ右翼ヨリ歩哨ノ位置ヲ決定シ特別守則ヲ附與シテ哨所ノ位置ニ歸還シ傳令及斥候等ヲ決定ス尚日沒迄ハ歩哨線ノ偵察ヲ爲スコトヲ怠ル可ラス

獨立下士哨ノ位置ヲ定ムルニハ左ノ件ヲ考慮スヘシ

敵ヨリ隱蔽シ且ツ若干ノ抗戰ノ出來得ル地點

前哨中隊又ハ前哨本隊トノ連絡確實ナル所

歩哨トノ連絡確實ナル所約四百米突ヲ越ヘサルコト

歩哨ハ右翼ヨリ番號ヲ附ス

哨長哨所ノ位置ニ歸還セハ隣哨所ニ巡察ヲ出シ連絡ヲ取リ次テ略圖ヲ以テ前哨中隊長（前哨司令官）ニ報告ス

獨立下士哨ハ小哨ト異リ下士哨銃前哨ヲ出スコトナシ是レ獨立下士哨

ハ複哨ハ交代兵ノ外斥候ニ充ツヘキ者若干ヨリ成ルモノナレハナリ

上官哨所ニ來ル時ハ哨長ハ出テ之ヲ報告ス又下士兵卒ハ休憩シ在ルヘシ

糧食ハ其中隊ヨリ分配セラル

哨所ニアル兵卒ノ心得ハ小哨ニ於ルト異ナルコトナシ

哨長ハ敵襲ニ當テ執ルヘキ所置ヲ研究シ置ヘシ

其他ノ動作ハ小哨ニ準ス

第七節　下士哨

下士哨ハ通常下士若シクハ上等兵ヲ長トシ兵卒六名ヨリ成リ其二人ハ歩哨トナリ自餘ハ交代兵トシテ其近傍ノ遮蔽物ニ據リ休止シ在ルヘシ

下士哨ハ左ノ場合ニ使用ス

特別ニ重要ナルカ或ハ危險ノ地

交代ニ時間ヲ要スル地

下士哨長ハ任務ヲ受領セハ示サレタル地點ニ至リ複哨ヲ配置シテ小哨長ノ特別守則ヲ授カル迄左ノ守則ヲ假ニ歩哨ニ授ク

敵方

顧慮スヘキ地點ノ名（假ニ甲村乙山ト稱スルモ可ナリ）

姿勢

歩哨ノ後方五六歩ノ所ニ交代兵ヲ遮蔽シテ休憩セシメ小哨長ノ來ルヲ待ツ小哨長來リ特別守則ヲ授クレハ下士哨長之ヲ復唱シテ後チ歩哨ニ充分了解セシメ然ル後後方遠クモ五十米以内ニ下士哨ノ位置ヲ選定ス

第八節　歩哨ノ任務

歩哨ノ任務ハ絶ヘス敵ノ動靜ヲ觀察シ疑ハシキ徵候ニ注意シ異狀ヲ報告スルニアリ

第九節　歩哨ノ守則

歩哨線ニアル歩哨一般ノ守則

一、歩哨ハ敵軍ノ方向ヲ監察シ凡テ疑ハシキ徵候ニ深ク注意シ若シ敵ニ關シテ發見セシ事アレハ速ニ其一人ハ小哨（時機ニ依リ中隊）ニ報告スヘシ若シ猶豫セハ危殆ニ陷ルト認メシ時或ハ敵襲ト知リタル時ハ急劇ノ射擊ヲ爲シテ警報スヘシ

二、晝間ハ我軍ノ將校密集部隊斥候及ヒ傳令使ニ歩哨線ノ出入ヲ許ス自餘ノ者ノ通過ニ關シテハ凡テ小哨長ノ指示ヲ受クヘシ歩哨ノ命スル所ニ從ハサル者アレハ之ヲ射擊スヘシ

三、夜間歩哨ニ近ク者アレハ銃ヲ擕ヘ「誰カト」問フ若シ呼フコト三次ニ至ルモ尙答ヘサルトキハ射擊スヘシ凡テ其他ノ處置ハ晝間ノモノニ異ナルコトナシ

四、白旗ヲ翻ヘシ遠方ヨリ軍使タルコトヲ標シ來ル者アルトキハ之ヲ待遇スルニ敵ヲ以テセス之ヲ歩哨線外ニ止メ小哨長ニ報告スヘシ此規則ハ敵ノ單獨ニ銃ヲ投棄シ或ハ遠方ヨリ降參人タルコトヲ標シ來ル時ニモ亦適用ス然レトモ武器ヲ携帶シアル者ハ先ツ之ヲ放棄セシムヘシ

五、歩哨ハ命令アルニ非サレハ座臥シ或ハ銃ヲ手ヨリ放スヲ許サス而シテ晝間立銃ヲ爲スカ或ハ提銃ヲ爲スカ若クハ銃ヲ腕ニ（銃口ヲ前ニシ稍々水平ニ腕ニ托ス）スヘキカハ其ノ隨意トス然レトモ夜間ハ擕銃提銃又ハ腕銃ヲナスモノトス又上官ノ來ルアルモ之ニ敬禮スルヲ要セス若シ上官ヨリ質問アレハ監視ヲ中止スルコトナク唯姿勢ヲ正シテ答フヘシ

歩哨特別守則

一、敵情特ニ監視ス可キ地方

二、前方ニアル我部隊ノ位置及動作
三、顧慮スヘキ村落ノ名稱及道路ノ方向
四、歩哨ノ番號
五、隣歩哨ノ位置番號並ニ之ト連絡法
六、所屬小哨前哨中隊ノ位置及ヒ之ニ至ル捷路
七、歩哨特別ノ姿勢

歩哨ノ注意

一、逃亡人ト認メシトキハ之ヲ追躡シ尚ホ及ハサルトキハ射擊ス若シ之ヲ捕ヘシトキハ小哨ニ送ル然レトモ其守地ヲ遠ク離ル可カラス
二、歩哨ハ樹本堆土等ニ據リテ敵眼ニ觸レサルヲ要スト雖モ敵ヲ見ルコトヲ忘ル可ラス
三、歩哨ハ常ニ裝塡シ且ツ夜間ハ着劍ス

四、夜間ハ目ヨリ耳ヲ專ラ使用シ且ツ方位ヲ誤ラサルタメ高樓喬木等ニ依リ其方向ヲ選定シ置ク可シ
五、數人近ツキ來レハ其內一人ヲ進メテ其來ル所以ヲ問ヒ通過ヲ許ス可キ者ハ之ヲ許ス
六、歩哨ハ所屬部隊ノ將校下士又ハ歩哨掛上等兵並ニ巡察斥候ニ非レハ其守則ヲ語ル可ラス
七、歩哨報告ニ行ク時單ニ迅速ト云フ考ニテ前後ノ考モナク地物ヨリ離ルヽトキハ敵ニ發見セラルヽコトアルヲ以テ注意セサルヘカラス敵ノ斥候ハ常ニ此等ノ出來事ヲ待受ケ我歩哨ノ位置ヲ知ラント勉ムレハナリ故ニ監視中身體ヲ遮蔽シアルト同樣地物ヲ利用シテ報告ニ行クコトニ留意スルヲ要ス
八、歩哨線ノ近傍ニ於テ射擊其他ノ音響ヲ聞キシトキハ復哨ノ一名其方

向ニ進ミ原因ヲ正ス可シト雖モ遠ク守地ヲ離ル可ラス

九、敵兵稍々近ツクトキハ射撃シテ之ヲ抗拒ス若シ防ク能ハサルトキハ射撃シツヽ迂路ヲ經テ小哨ニ退却ス可シ是レ一ハ小哨ノ位置ヲ知ラシメサルト一ハ後方部隊ノ射撃正面ヲ避クルタメナリ

十、歩哨ノ交代ハ新舊兩歩哨敵ノ方ニ正面シテ併立シ舊歩哨ハ新歩哨ニ特別ノ守則及ヒ其服務中實見セシ事件ヲ傳告ス可シ但シ此ノ交代ハ歩哨掛下士（上等兵）ノ監視ニアラサレハ決シテナス可ラス

十一、歩哨交代シテ小哨ニ歸レハ自分カ服務中ニ生シタルコトヲ其長ニ報告スヘシ

第十節　前哨ノ斥候

前哨斥候一般ノ心得

一、前哨ニ於テ斥候ノ任務ハ歩哨ノ耳目ノ及ハサル地ヲ捜索シ敵ノ動靜

ヲ候察スルニアリ時トシテハ地形ノ偵察ニ任スル事アリ

二、斥候長ハ出發ノ際敵情取ルヘキ道路特ニ意ヲ用ヒテ捜索ス可キ地物及要スルトキハ歸途ノ時限ニ關スル等ノ指示ヲ受ケ是ヲ復唱シテ其任務ヲ簡單ニ部下ニ示スヲ要ス

三、斥候ハ其進退動作ニ深ク注意シ靜肅ニシテ喧噪ナル可ラス又屢々停止シテ音響ヲ聽キ能ク地物ヲ暗識スルヲ要ス是レ地形ノ就テノ説明ヲナシ又時トシテハ嚮導トナリ得可キカ爲メナリ

四、斥候ハ勉メテ廣ク捜索シ敵ニ中斷セラレサル樣往路ト異ナル歸路ヲ選ミ又タ出發ニ際シ其集合點ヲ定メ置キ止ムヲ得スシテ離散セシトキハ其點ニ集ルモノトス

五、斥候相遇フトキハ互ニ其見聞セシ情報ヲ交換ス可シ

六、斥候任務ヲ達セハ速ニ歸還シ決シテ無用ノ戰鬪ヲナス如キコトアル

ヘシ

七、斥候歩哨線ヲ出ルトキハ其ノ近隣ノ歩哨ニ其行ク方向歸還時間及地點ヲ告ケ歩哨ヨリ敵情ヲ聞キ取リ又歸還セシトキハ敵情ニ就キ見聞ヲタル事件ヲ單簡ニ告知スヘシ

八、斥候歩哨線ヲ通過スル時ハ行進隊形ノマヽ進出シ敵ヲシテ歩哨線タルヲ知ラシメサル如クスヘシ

九、其他行軍斥候ニ示ス處ノモノハ此斥候ニモ亦適用スル者トス

乙　前哨ノ斥候敵ニ對スル心得

一、敵ノ一歩哨ヲ發見セシトキハ地物ニ據テ隱匿シ其長ハ隣歩哨ヲ發見スル事ヲ勉メ而シテ一名ヲ捕獲ス可シ

二、斥候ハ不意ノ敵襲ニ遇ヒ自己防禦ノ爲カ又ハ敵ノ近接ヲ報ズルニ餘裕ナキトキノ外射擊ヲナス可ラス

三、敵ノ小ナル斥候ニ會遇セシトキハ其斥候ノ通過シ終ル迄地物ニ潛匿シ後ヲ行進ヲ續行スベシ若シ敵ノ斥候我ガ前哨ニ近接セシトキニ限リ之ヲ擊退スベシ

四、行進スル敵ヲ發見スルトキハ力メテ潛伏シ其兵員及狀況ヲ察スルコトヲ勉ムヘシ而シテ其敵多數ニシテ我陣地ノ方ニ進ミ來ラハ其一名ヲシテ速ニ報告セシム

五、凡ソ敵兵發見ノ爲メ出サレタル斥候ハ敵ノ位置ヲ確證スルニアリ故ニ假令敵ニ覺知セラレ或ハ其射擊ヲ被ルモ尙ホ狀況ヲ探知スルヲ勉ムヘシ

第十一節　銃前哨

銃前哨ノ任務左ノ如シ

一、歩哨線又ハ前方部隊（小哨ノ如キモノ）ト連絡シ其方向ニ起リシ

コトヲ注意シ又隣哨ニモ注意ス

二、小哨若シクハ前哨中隊直接ノ警戒ニ任ス

三、上官又ハ傳令ニ小哨又ハ前哨中隊ノ位置ヲ教示スルコト

第十二節　巡察

巡察ハ時々歩哨線内ヲ巡視シ歩哨ヲ監視シ且歩哨ヲ配置セサル土地ヲ捜索シ比隣小哨ト連絡ヲ通スルニアリ而シテ通常其長及兵卒若干名ヨリ成ルモノトス

又歩哨線ニ於テ射撃又ハ喧噪セシ時ハ之カ事實ヲ究メ且ツ歩哨ヲ援助スル爲ニ出スコトアリ而シテ巡察ハ通常小哨ヨリ出スト雖モ時トシテ前哨中隊若クハ前哨本隊ヨリ出スコトアリ

第七章　行軍

凡ソ戰時軍隊ノ爲ス可キ業務ノ大部分ハ行軍ニ在リ行軍ハ總テノ作戰ノ基礎ト成リ而シテ其實施ノ確實ナルハ戰鬪ノ結果ヲシテ良好ナラシムルノ原因ナルカ故ニ各自行軍軍記ヲ嚴格ニ守リ被服裝具衛生ニ注意スル時ハ行軍力ヲ保持スルニ最モ有効ノ方法ナリ行軍ニ用ヰタル注意ノ深淺ハ落伍者ノ多少ヲ以テ判斷セラルルカ故ニ行軍隊伍ニ列スル者ハ注意ヲ要ス

第一節　兵卒ノ心得

一、行軍中ノ注意

途ノ號令號音アル時ハ各兵卒ハ歩調ヲ取ラス

途歩中銃ハ右肩(左肩)ニ擔ヒ又ハ負銃ヲ爲スモ妨ケナシト雖銃口ヲ上下左右ニ偏スヘカラス是レ前後左右ノ兵ニ疲勞ヲ爲サシムル原因ナリ

情況障リナキ時ハ隊長ヨリ談話シ唱歌シ又ハ喫煙スルコトヲ許サル

前後ノ距離ヲ伸スヘカラス是レ後方部隊ニ及ホス影響大ナレハナリ

左右ニ間隔ヲ廣ケル可カラス是レ道路ノ一側ハ傳令往復ノ爲ニ供スルモノナレハ之ヲ閉塞スル時ハ命令報告ノ傳達ヲ遲延ナラシムレハナリ

各人猥ニ服裝ヲ亂スヘカラス

兵卒ハ無斷ニ列ヲ離ル可ラス

止ヲ得ス列ヲ離ルル事アラハ小隊長ニ屆出許可ヲ得銃ヲ同列兵ニ托スヘシ

先頭ニアル者ハ常ニ歩度ニ注意スヘシ

夜中行軍ニ當ラハ靜肅ト連絡トニ注意スヘシ

敵前ニ於ケル夜行軍ニ在テハ武器裝具等ノ音響ヲ發セサル樣注意シ談話喫煙ヲ爲ス可ラス

軍橋ヲ渡ル時ハ列ヲ整ヘ歩ヲ揃フ可カラス又軍橋通過中前後ノ距離延伸スルモ橋上ニテ駈歩ヲナシ距離ヲ閉ツ可ラス

官衙又ハ尊敬スヘキ人軍旗等ノ傍ラヲ通過スル際ハ途歩ト雖モ喫煙談話ヲ中止スルヲ要ス

二、行軍間休憩中ノ注意

休憩ノ命アルトキハ速カニ休止ノ姿勢ニ移ルヲ要ス之カ爲メニハ背嚢ノ着脱及又銃ヲ迅速ニスヘシ

休憩中ニハ必ス小便ヲ爲ス事

休憩中必ス靴下ノ皺ヲ伸シ靴傷ヲ豫防スヘシ

休憩中道路ヲ立ヲ塞クヘカラス

休憩中ハ上官ニ敬禮ヲ爲スニ及ハス

大休止ノ時ハ脫靴シ足ヲ冷水又ハ冷氣ニ觸レシムヘシ

休止ノ爲メ腰ヲ掛ケテ足ヲ休メサル可カラス

許可ナク水ヲ飲ムヘカラス

寒中ニハ急ニ溫暖ヲ取リ室内ニ入ル等ノ事アル可ラス暑中ハ陰影ニ入ル可シ

雪中ニ在テハ長ク靜止ス可カラス適當ニ身體ヲ活動スヘシ

時期アレハ水筒ノ湯ヲ補充スヘシ

休憩地ヨリ遠ク分散スヘカラス

三、宿營間ノ注意

諸物品ノ手入ヲ爲ス事

殊ニ靴ニ塗油スル事油ハ動物性（豚牛鯨馬油）植物性（種油燈油）ヲ適當トス

足ノ手入ヲ爲ス可シ

兩足ハ冷水ニテ洗フカ又ハ入浴シ殊ニ指ノ間ヲ清潔ニシ爪ノ長ク伸シモノハ切リ置クヘシ又俗ニ（まめ）ノ出來タル時ハ針（火中ニ投シ消毒ス）ヲ以テ表皮ヲ刺シ水ヲ出シ靴傷糊ヲ貼附スヘシ

四、靴傷糊ノ製法及靴傷油

靴傷ノ出來タル者ハ飯粒ヲ水ニテ練リ糊トナシ煙草ノ吸殼灰ヲ混シ之ヲ布又ハ紙ニ塗布シ局所ニ貼附スルナリ

行軍中靴傷ヲ豫防スルニハ「ワセリン」「パラフイン」硼酸軟膏ヲ用ユルト雖モ材料ナキトキハ「ピンツケ油」「コスメチツク」ニテモ代用シ得

（そこまめ）ト稱スルモノハ醫官ノ診斷ニ依ルヘシ

五、行軍出發前ノ注意

背嚢ノ入組品ヲ整ヘル事

靴トヲ準備スルコト
睡眠ヲ充分ニ爲シ置クコト
短靴ハ動物性植物性ノ油ヲ塗ルコト
大酒大食ヲ避クルコト
襦袢袴下等ヲ清潔ニ爲シ置クコト
靴ノ堅固ト脚胖ノ堅固ニ注意スルコト
武器被服ノ手入ヲ充分ニ爲シ置クコト
必要ヨリ早ク起ク可ラス大概整列時一時間前ニ起床シ洗面食事武裝ヲ爲シ少クモ五分前ニハ整列位置ニアルコト
食事ハ必ス爲スコト若シ食慾進マス又遲刻ノ恐ヲ以テ食事スルノ暇ナキ時ハ之ヲ携行シ途中ニテ時機ヲ得テ喫食スルヲ良トス
大小便ハ必ス整列前ニ之ヲ爲スコト

忘レ物無キ樣注意スルコト
背嚢ハ規則正ク負擔シ肩ニ敍ノヨラサル如ク爲スコト
器具豫備靴等ハ堅固ニ附着スルコト

第二節　行軍々紀上分隊長ノ注意

分隊長ハ出發ニ當リ服裝ノ檢査ヲ確實ニ施行スルコト
分隊長ハ行軍中分隊ノ行軍々紀ヲ監視ス（但シ之カ爲メ列ヲ離ルヘカラス）
先頭ノ分隊長ハ特ニ歩度ニ注意スルコト
休憩中衞生ニ注意シ靴足ノ手入ヲ實行セシムルコト
不潔ノ水ヲ飲マシメス且水筒ノ貯水ニ注意スルコト
窓ニ隊列ヲ離レ又ハ服裝ヲ亂ル者ニ注意ス
銃ノ位置距離間隔ハ後尾ニアル分隊長之ヲ注意ス

宿營中足靴ノ手入ヲ監視實行セシムルコト
夜行軍ニ在テハ靜肅ヲ保持シ連絡ヲ失ハサル樣注意スヘシ
宿舍中起床及食事及整列時刻ニ注意ス整列ハ早キニ過キス遲キニ失セサルヲ可トス

第三節　行軍ノ種類

急行軍　一日ノ行程九里乃至十一里ニシテ休憩日ヲ置カス
强行軍　行程ヲ定メス止ムヲ得サルトキハ之ヲ用ユ
旅次行軍　敵ニ遠キ場合ニ警戒隊ナクテ行進スルヲ言フ
戰鬪行軍　警戒隊ヲ設ケテ行進ス
夜行軍　夜間行軍スルヲ云フ

第四節　行軍隊形及速度

歩兵ハ通常四列側面縱隊ニテ行進シ廣キ街道ニ在テハ通常其一側ヲ空

フシ他隊ノ通過ニ供ヘ狹キ道路ニ在テモ勉メテ其歩ヲ停止セシメス單獨ノ騎兵ヲ通過シ得セシムヘシ重複セル側面行進ヲ爲スニハ行軍中下士缺伍ノ兵上等看護卒モ皆四人ヲ以テ一列ヲ作ルヘシ喇叭手ノ位置ハ大隊長之ヲ定ム其中一人ノ喇叭手ヲ大隊ノ後尾（或ハ獨立中隊ノ後尾）ニ行進セシムヘシ是レ道路ノ一側ヲ虛フスルコト殊ニ須要ナルトキハ「右」或ハ「左」ヲ吹奏セシメンカ爲ナリ此號音ヲ聞クトキハ行軍縱隊中ノ諸兵ハ之ニ從ヒ嚴ニ其一側ニ偏スヘキモノトス
道路險惡ナルカ炎暑ノ時ハ行軍縱隊ヲ兩側ニ分チ中央ヲ空シクスルコトアリ
時宜ニ因リ開進ヲ速ニスル爲メ行軍縱隊ヲ短縮シ分隊又ハ半小隊縱隊ニ爲スコトアリ
諸部隊間ノ距離ハ左ノ如シ

歩兵工兵中隊後　八米突
歩兵工兵大隊後　十米突
歩兵聯隊後　三十米突
旅團後　六十米突

普通行軍ニ在リテハ一吉羅米突ヲ通過スルニ十三分ヲ要ス故ニ一里ヲ行クニ休憩ヲ合シ一時間ト算スルヲ可トス

第八章　宿營

第一節　宿營ニ左ノ三種アリ

舍營　家屋内ニ宿泊ス
露營　原野ニ宿泊ス
村落露營　一部ハ原野ニ一部ハ家屋内ニ宿泊ス

第二節　露營ト舍營トノ利害

舍營	露營
給養ニ便ナリ	給養ニ不便ナリ
休養衛生ニ可ナリ	休養衛生ニ不可ナリ
戰鬪準備ニ不利ナリ	戰鬪準備ニ速ナリ

故ニ左ノ場合ニ用ユ

舍營ハ敵ニ遠ク敵襲ノ顧慮ナキ時

露營ハ敵ニ接近シ速ニ集合スルヲ要スル時又ハ宿營スヘキ家屋ナキトキニ用ユ

村落露營ハ敵ニ接近スルカ又數團隊ヲ一地ニ集合スルヲ要シ其地方人家ニ乏シキトキ之ヲ用ユ

第三節　舍營中兵卒ノ心得

舍營ニ就キタレハ直ニ武器ノ手入ヲ爲スコト

銃架ヲ作ルコト

被服ノ手入ヲ爲スコト

裝具ノ整頓場ヲ設クルコト

入浴スルコト

速ニ休憩ニ移ルコト

應急ノ所置ヲ研究シ置クコト

靜肅ニ舍營シ舍主ニ迷惑ヲ懸ケサルコト

宿舍長ノ命ニ從ヒ食事ヲ爲ス

便所等ヲ不潔ニセサルコト

舍主不親切ナル時ハ中隊ニ報告ス又宿舍内ニ病人アルトキハ申出檢査ヲ受ルコト

出發ノ爲メ整列ノ時ハ宿札ヲ取除クコト

亂リニ舍外ヘ外出セサルコト

翌日ニ關スル命令（整列時間等）ヲ聞キタル後就眠スヘシ

第四節　舍營中ニ於ケル宿舍長ノ任務

兵卒ヲシテ武器被服ヲ手入セシムルコト

銃架整頓ノ位置順序ニ規定ス

速カニ休憩ニ移フシムルコト

宿札ヲ速ニ差出スコト

時計ヲ中隊長ニ合シ置クコト

炊事場中隊本部及集合場ヲ知リ置クコト

應急所置ヲ研究シ置クコト

兵卒ノ軍紀風紀ヲ取締ルコト

明日ノ整列時刻ニ遲レサル所置ヲ爲シ置クコト

宿營ニ就クヤ直チニ宿札ヲ中隊事務室ニ差出スモノトス

將校	下士	卒	馬丁	僕	一年志願兵	合計	地名番地	家主姓名
	二	拾				一八	浦和町地三番	民野家也㊞
		六						

明治四十年十一月卅日　宿舍長陸軍歩兵伍長　某㊞

第五節　舍營ノ勤務

舍營司令官……舍營日直將校……部隊日直將校（大隊ニ中少尉一名）

　　外衛兵

　　風紀衛兵

　　部隊日直下士（獨立中隊ニ限ル）

第六節　部隊日直下士ノ業務

大隊ヲ編成セラレタル時ニハ部隊日直將校ヲ設ケタルモ中隊孤立シ他ノ部隊ト共ニ宿營スル時ハ部隊日直下士ナルモノヲ設ケラル此下士ハ直ニ舍營日直將校ニ屆告シ舍營ノ内務及其警戒ニ關シ必要ノ命令ヲ受ク

部隊日直下士ハ其舍營區内ノ靜肅及軍紀ニ注意シ且其隊長及舍營司令官ノ命令ヲ實施ス

第七節　風紀衛兵

風紀衛兵ノ割出シヲ受クレハ指定ノ位置ニ至リ舍營日直將校ノ命ヲ受ケテ歩哨ヲ配置シ守則ヲ受ク此歩哨ハ軍旗行李銃前等ノ位置ニ設クルモノトス

風紀衛兵ノ動作ハ衛戍勤務ノ規則ニ從フ

司令ハ其舍營地内ノ靜肅及軍紀ヲ維持ス

司令ハ居民ノ擧動ニ付テ注意ス

司令ハ舍營司令官及高等司令部(師團司令部以上)ノ位置ニ置クコト

司令ハ火災ニ付テ注意ヲ爲ス

突然ノ敵襲ニ際セハ責任ヲ以テ非常號音ヲ吹カシム

第八節　外衛兵ノ任務及動作

敵ノ急襲ヲ警戒シ且ツ之ニ對シ抵抗スルコト

前哨及隣宿營地ト連絡ヲ保持スルコト

内外ヨリ舍營地ニ出入スル者ヲ檢査シ要スレハ其出入ヲ制止ス

警報ニ際シテ別命アル迄其位置ヲ固守ス

外衛兵トナル時ハ指定ノ位置ニ至リ舍營日直將校ヨリ守則ヲ受ク而シテ其報告ハ舍營日直將校ニ出スモノトス

守　則

一、前方即チ監視スヘキ地

敵情特ニ監視スヘキ地方及顧慮スヘキ村落ノ名稱前哨及之ニ通スル道路

二、自己

歩哨ノ番號及執銃　連絡法、方位、人民、交通ニ關スル件

三、側方

隣歩哨ノ位置番號及隣接セル外衛兵ノ位置並捷路

四、後方

所屬外衛兵舍營或ハ露營司令官ノ位置及之ニ通スル捷路

第九節　設營隊ノ動作

中隊ノ設營隊ハ通常下士及兵卒若干ヨリ成リ行軍中已ニ舍營ノ企圖アル時ハ先遣セラルルモノナリ此設營隊ハ大隊設營係ヨリ各中隊ニ舍營區畫ヲ示サルル時軒別ニ示スト示ササル場合トアリ先其業務ヲ順序的ニ示セハ

舍營區畫內ノ總疊ヲ數ヲ計算ス

一人ニ付疊數ヲ領スル比例數ヲ求ムヘシ

各小隊ノ下士上等兵ノ姓名ヲ知リ置キ成ルヘク建制ニ從ヒ配當スルコト之カ爲メ要スレハ宿札ヲ貼布スルコト

中隊本部及事務室ハ宿營地ノ中央ニテ成ル可ク從卒當番下士官ハ同所ニ泊ル故廣キヲ可トス

但シ止ムヲ得ス士官室事務室ヲ區別スル時ハ相隣接スルヲ可トス

舍營地ノ略圖ヲ調製ス

小札ニ宿舍長及舍主及人員ヲ記載シタル票ヲ作ルヘシ

行軍シ來ル中隊ヲ誘導スル爲メ舍營地ノ入口ニ當番卒ヲ出迎ハシム

中隊到着セハ中隊長ニ報告ス

小札ヲ宿舍長ニ分配シ略圖ヲ以テ概定ノ位置ヲ指示ス

第十節　警急舍營ノ心得

警急舍營ハ勉メテ建制部隊毎ニ一家屋ニ舍營スト雖露ヲ防クニ外ナラス之カ爲メ疊アル所ハ疊ヲ取除キ靴ヲ穿チ脚胖彈藥盒水筒雜囊ヲ帶ヒテ服裝ヲ整ヘ背嚢ハ身邊ニ置キテ戸外ニ又銃シ凡テ窓戸ヲ開キテ各侵入出路

ノ生雛等ハ通路ヲ設ク各家屋内ニハ少クモ一名ノ兵點燈シテ警戒ヲナスモノトス

第十一節　駐留舎營ノ心得

諸般ノ設備ヲ完全ニシ炊事場入浴場便所等特ニ然リトスト雖モ敵ノ顧憂ヲ全ク放ツヘカラス

第十二節　滞在日ノ業務

戰時ニ在テハ定則ノ休日ヲ與フル能ハス其敵ヲ距ル遠キ時ニ在テモ又豫定ノ時日ニ於テ休暇ヲ得ルコト難シ故ニ苟モ機會ヲ得ル毎ニ人馬休養ト彼服裝具ノ手入修理ヲ爲スモノトス通常ノ場合ニハ四日毎ニ一日ノ滞在ヲ行フモノトス

武器ノ手入

被服ノ手入洗濯

身體ノ休養

背嚢入組品ノ整理補充

書簡ノ發送

第十三節　警報ノ處置

警報ノ時ハ武裝ヲ整ヘ靜粛ヲ保チ先ツ中隊ノ集合場ニ集合ス若シ集合スルノ暇ナキ時ハ宿舎又ハ小隊毎ニ抵抗スルモノトス

第十四節　露營

一、露營地撰定ノ要旨

敵眼ヲ避クヲ要トス

各露營互ニ交通ノ便アルヲ良トス

水ヲ得ルコト容易ニ且ツ十分ナルコト

乾燥ナルト風雨雪ノ障蔽ヲ得ルコト

草地ハ縱ヒ乾燥ナルモ夜間濕氣ヲ來ス

大樹林及砂地ハ適當ナリ

二、露營ニ於ケル兵卒ノ注意

露營ニ於テハ戰備嚴肅ナラサルヘカラス

露營地ヨリ散ス可ラス

大小便ハ規定ノ所ニ爲スヘシ

露營火ノ爲メ被服ヲ燒カサル樣注意スルコト

背嚢ノ入組品ハ成ル可ク展開セサルヲ可トス

露營中ノ食事分配等ハ宜シク注意シテ喧噪ナラサルヲ要ス

出發前消火ス

露營中下士卒ハ設備及雜役ニ從事スル間ハ上官ニ對シ敬禮ヲ行フコト

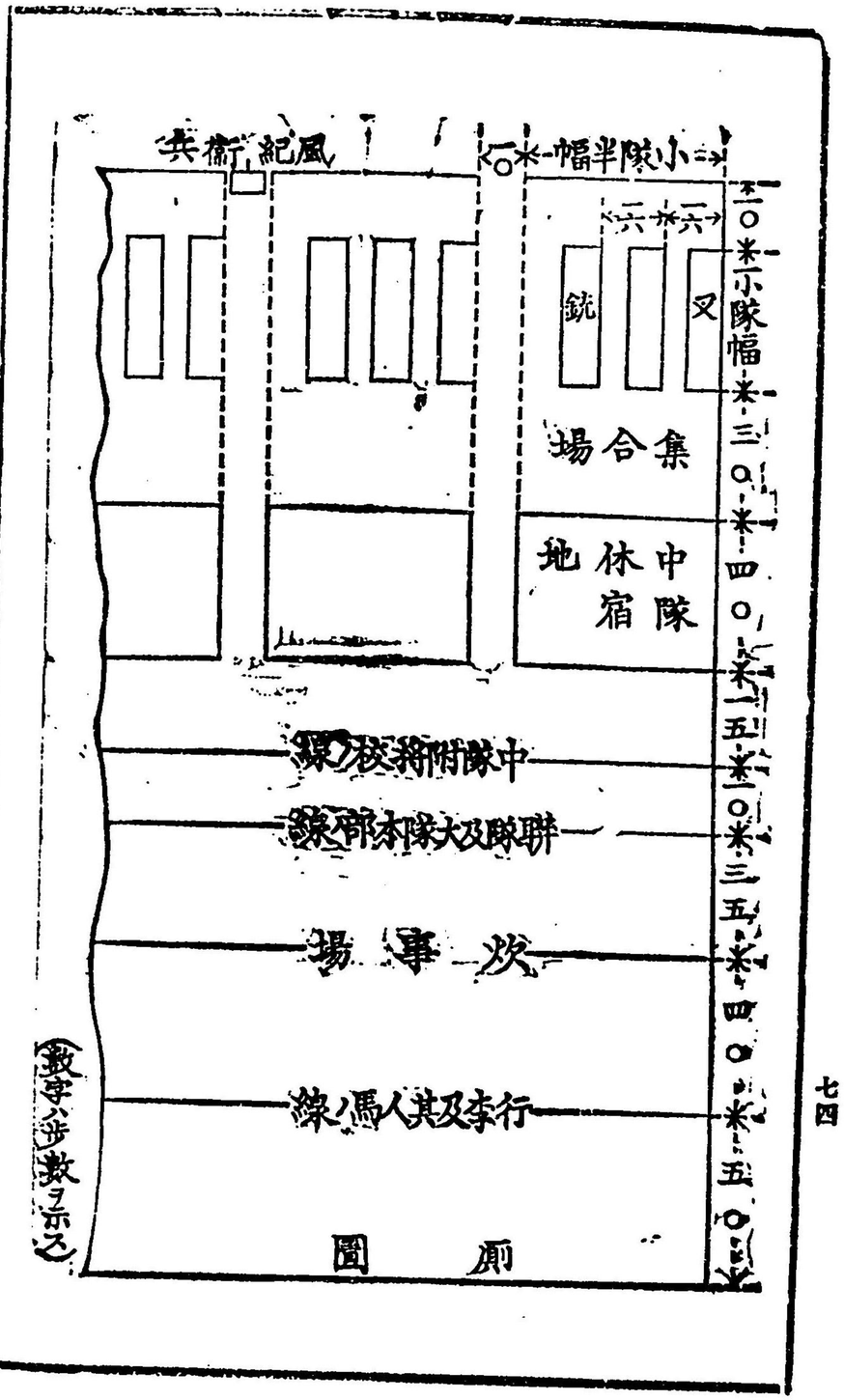
ナシ休憩中モ又同シ

呼集ノ時ハ下士兵卒ハ武器ヲ携フルコトナシ

永キ滯在ノ露營ニ在テハ散歩ヲ許サルルコトアリ然ルトキハ歸營號笛

ニテ歸營スヘシ

三、歩兵大隊ノ露營



四、露營ノ勤務

露營司令官—露營日直將校—部隊日直將校
　　同　　下士
　　—外衛兵
　—風紀衛兵

五、風紀衛兵

此風紀衛兵ハ舍營ト異リ部隊毎ニ（歩兵ハ大隊）設クルモノ故部隊日直將校ニ屆出ルモノトス而シテ風紀衛兵ノ任務ハ左ノ如シ

露營地ノ軍紀ヲ取締ルコト

露營地外ニ勤務（許可）外出入スルヲ禁止ス

警戒ハ主トセス取締ヲ專任トス

六、警報及出發

警報ノ時ハ各自ニ背嚢ヲ負ヒ又銃線ノ側ニ集合シ銃ハ命令アラサレハ解カヘ

風紀衛兵ハ軍隊出發シタル後材料ヲ監視ス

出發ノ直前ニ於テ盡ク火ヲ消スモノトス

第九章　給養

第一節　戰地ニ於ケル人馬ノ給養左ノ如シ

一、舍主ノ供給スル糧秣

二、軍隊ノ携行スル糧秣（各自携帶スル糧秣及大行李糧食縱列ニ積載スル糧秣）

三、倉庫ノ糧秣

四、軍隊ノ直接ニ徵發セル糧秣

第二節　出征軍ニ屬スル軍人軍屬ノ糧秣ハ左ノ如シ

精米（時宜ニ依リ若干量ハ挽割麥ヲ以テ代用ス）　副食物

第三節　携帶口糧（各自携帶スル糧秣）

甲、精米及副食物若干　乙、乾麵包及副食物若干

各自二日分（甲一日分　乙一日分）

第四節　携帶口糧ヲ使用スル場合左ノ如シ

命令アリシ時

非常ノ場合ト全ク他ニ給養ノ方法ナク已ムヲ得サルトキ其長ハ責任ヲ以テ許可スルモノトス

使用シタル時ハ直ニ理由ヲ述ヘテ補充シ置ク事

第五節　徴發

敵國ニ於テ行フ徴發法ニ二種アリ曰ク部隊徴發曰ク官憲徴發

一、部隊徴發トハ軍隊ヲ以テ直接ニ糧秣ヲ徴發スルモノニシテ師團長又ハ獨立セル一支隊長其權ヲ有ス

二、官憲徴發ハ野戰倉庫ヲ充實スル爲徴發ヲ行フモノニシテ軍又ハ師團ノ經理部長ヲ以テ之ヲ行ハシムルヲ適當トス

徴發ト雖無代ヲ以テ徴收スルニ非ス評價ヲ定メ相當ノ代ヲ支拂フモノナレハ決シテ掠奪ヲ爲ス可ラス

第六節　飯盒自炊法

一日分ノ糧秣ハ六合ナル故ニ一食ハ二合ナリ之ヲ量ルニハ飯盒ノ菜入即チ懸ケ盒ヲ以テ量ル大凡懸盒一杯ハ二合（一食分）ナリ之ヲ飯盒中ニ入レ一食分ニ對シ水ヲ飯盒ニ三分ノ一、二食分ナレハ三分二、三食分ナレハ略飯盒ノ上際迄水ヲ入レ蓋ヲ爲シテ炊キ湯氣ノ吹キ上リタル頃ヲ見計ラヒ火ヲ引キ若干時間之ヲ蒸置クヘシ（炊クニハ分隊等ニテ合力シ烈火ヲ以テスルヲ良トス）

第七節　糒ノ使用及鑵詰（牛肉大和煮）使用法

糒ハ熱湯中ニ袋ノ儘投入シ蒸シ上リタル頃ヲ見計ヒ使用ス一袋ハ一食分ナリ

鑵詰ノ肉ヲ使用スルニハ三人ニテ一個ヲ組合食用スレハ一人一鑵ヲ三食ニ分チテ使用スルヨリハ便ナリ

第八節　舍主待遇報告ノ例

舍營ニテ且宿舍給養ノ節ハ舍主ノ待遇法ニ就テ報告ヲ出サシムル場合アリ是等ハ別段書式等ナキモ概ネ左ニ準シテ是ヲ調製セハ可ナラン

浦和町舍營舍主待遇報告

浦和町中通三番地
舍主　川田草造

一待遇法
待遇ハ定食ニ對シ充分ノミナラス頗ル良キ方ナリ
二寢具ノ過不足
寢具ハ一人ニ就キ蒲團一枚夜着三人ニ付二枚ノ配當ナリ
三献立ノ大要

朝　味噌汁　焼魚　牛肉
晝　香物　香味　野菜
夜　卵　豆腐　香物

飯量モ充分ナリ

年　月　日

舍主長
歩兵伍長　某

第十章　彈藥補充

彈藥補充ハ最モ主要ナルモノニシテ之ヲ射盡セハ戰鬪力ヲ失フ故ニ戰鬪中又ハ戰鬪後適當ナル時機ニ於テ彈藥補充ヲ爲スハ諸指揮官ノ任務トス

第一節　兵卒彈藥使用上ノ注意左ノ如シ

効力ナキ時ハ彈藥節約ノ爲メ射擊スヘカラス

彈藥ハ最初最モ取出シ惡キ彈藥盒ヨリス

戰鬪中ハ隣兵ノ背嚢ヨリ取出シ一人ハ射擊ヲ中止セサルコト

展開ノ節分配ヲ受クレハ之ヲ雜嚢衣裏ニ收メ置クコト

負傷シテ後方ニ送ラルルモノハ隣兵ニ彈藥ヲ渡スコト

死者ノ彈藥ハ隣兵之ヲ取出シ使用ス

行進中藥盒ノ蓋ヲ爲ハヲ怠ル時ハ無益ニ落失ス

地上ニ落シタル彈丸ハ清拭シテ使用スルコト

第二節　分隊長ノ任務

分隊長ハ彈藥ノ節約ニ注意シ部下ノ濫射ヲ監視シ射擊速度ニ着意スルコト

死傷者ノ彈藥收用ニ注意スルコト

後方ヨリ補充ヲ受ケタル時ハ迅速ニ平均ニ分配スルコト

兵卒ノ大約殘彈ヲ始終注意シ補充ヲ請求スルコト

要スレハ自己ノ彈藥ヲ分配スルコト

第十一章　鐵道及船舶輸送

第一節　鐵道輸送

輸送ヲ分チテ鐵道輸送及船舶輸送トス

輸送中ハ凡テ輸送指揮官ノ命令ニ從ハサル可ラス又鐵道吏員ノ指示ニモ從フヘキ者トス

軍隊既ニ乘車スヘキ停車場ニ至レハ輸送指揮官ノ命ニ依リ乘車場ニ入リ通常各區隊（一列車ニ乘ルヘキ人員ヲ一區隊トス）毎ニ四列側面ニテ列車ニ面シ背嚢ヲ下ス而シテ列車ノ配當ヲ受クレハ各列車ニハ高級古參者列車長トナル「進メ」ノ號令又ハ號音ニテ迅速且ツ靜肅ニ乘車シ背嚢ヲ脚下ニ入レ位置ヲ占メ運行中及停車中左ノ規則ヲ守ルヲ要ス

其位置ヲ離ルヘカラス

貨車ノ入口又ハ側板上ニ踞ルヲ禁ス

棚ニ武器ヲ重疊スヘカラス

窓ヨリ物ヲ投ケ又ハ頭手ヲ出ス可カラス

十分間停車スル停車場ニテハ下車ヲ許サル許可ナキ時ハ下車スヘカラス

窓側ノ者ハ帽其他物品ノ落失ヲ注意スヘシ

列車ノ番號ヲ記臆スルコト

下車スル時ハ其前ノ停車場ニテ下車準備ノ命アル者トス

輸送衛兵

輸送衛兵ハ列車停車中ニ乘車場ニ在テ停車中ノ軍紀風紀及荷物ヲ監視スルモノニシテ左ノ任務ヲ有ス

軍旗ヲ守護ス

金櫃及貴重品ヲ監視ス

各兵ノ乘降亂雜ナラサル如クス

停車場内ニ於ケル風紀ヲ維持ス

第二節　船舶輸送

船舶ニ於テハ輸送中ハ輸送指揮官及監督將校（海軍將校）ノ指示ニ從フモノトス

軍隊乘船ノ爲メ整列場ニ至リ輸送指揮官ノ指揮ニ從ヒ埠頭又ハ棧橋艀船ニ依リ乘船スル爲メニハ各班ニ區分シ將校下士ハ毎班ニ附セラル之カ指示ニ依リ一列若シクハ二列トナリ所定ノ席ニ至リ所定ノ銃架（此ノ設備ナキ時ハ直ニ座席）ニ至リ帶革ヲ脫シ共ニ架上ニ（或ハ座側）ニ置キ次ニ座席ニ至リ背嚢ヲ席ニ置キ着座ノ命アル迄其席ニ靜立ス

本船ニ至ルニ艀船ヲ用ユルトキハ銃ヲ提ケ之ニ乘込順次ニ遠キ所ヨリ舳部ニ面シ密縮シテ位置シ漕航中ハ最モ沈靜ナルヲ要ス而シテ海上危難ノ

虞アルトキハ豫メ背嚢ヲ卸シ且踞座セシムルヲ可トス

諸勤務ハ舍營ト略同一ナリ

輸送指揮官
- 日直將校（下士）
- 風紀衛兵
- 巡察

風紀衛兵

風紀衛兵ハ船内ノ軍紀風紀ヲ維持ス

風紀衛兵ハ各室及馬欄ヲ巡察シ以テ船則ノ遵守ヲ監視シ殊ニ火災及不潔ニ注意ス

風紀衛兵ハ別命ナケレハ銃ヲ携帶セス單ニ銃劍ノミヲ帶フ

特別ノ場合哨兵彈藥ヲ携帶シタ時、任務了ラハ衛兵所ニ納ム

風紀衛兵歩哨ハ通常炊事場給水所舷梯舷門彈藥所在所ニ配置ス

輸送中ノ禁令

一、寸燐等ノ發火器ヲ携帶セサルコト

二、喫煙飲食盥嗽等ハ必ス指定ノ場所ト時間トニ於テシ船内ヲ汚穢ナラシメサルコト

三、清水ノ使用ヲ節約スルコト

四、船橋或ハ前樓ニ上リ船室機關室庖厨ニ入リ又羅針盤ノ周圍及階梯ノ近傍ニ佇立ス可ラサルコト

五、私ニ燈火ヲ點シ又ハ所定ノ燈火ヲ他ニ持行クヘカラサルコト

第十二章　衛生

第一節　衛生勤務

一、各隊ニハ衛生勤務ノ人員即チ軍醫看護長看護卒ヲ備ヘ尚各中隊隊ニハ擔架術ノ教育ヲ受ケタル者アリ此兵ハ戰鬪ヲ開クニ至ル迄中隊内ニアリ而シテ假繃帶所ヲ開設スルニ際シ要スル時ハ補助擔架卒ヲ命スルモノトス

二、補助擔架卒ハ赤布ヲ右ノ上腕ニ縛シ擔架及繃帶嚢ヲ携ヘ戰線ニ前進シ傷者ノ救急及運搬ニ從事ス

三、凡テ繃帶所及病院ハ赤十字ノ標旗ヲ（外征ニハ國旗ト共ニ）樹テ其位置ヲ標ス而シテ夜間ハ更ニ赤色ノ燈ヲ揭ク

四、野戰衛生部ノ人員及材料（赤十字社救護員ノ物品ヲモ含有ス）ニハ中立ノ徽章即チ白地ニ赤十字ヲ畫ケル者ヲ附ス

五、中立ノ徽章ヲ附シ及ヒ其標旗ヲ植立スル所ノ人員及ヒ病院其他家屋等ヲ侵害スルハ嚴禁ナリ但シ敵ノ兵力ヲ以テ其病院ヲ守ルトキハ此限ニアラス

六、下士卒ハ繃帶包ヲ上衣ノ左裾ニ入レ携行スルモノトス

第二節　救急法

一、救急法ハ戰友若クハ自身負傷シタル時又ハ急病ニ罹リタル時醫療ヲ受クル迄ノ間臨時ノ處置ヲナスモノナリ

二、戰友ヲ救ハントスルニハ先ツ其生死ヲ區別スルヲ要ス是無益ノ力ヲ救フヘカラサルモノニ費シ自己ノ任務タル戰鬪動作ヲ不完全ニスルニ至レハナリ

第一　創傷

創ノ化膿シ又ハ腐壞スルニ至ルハ、皆病菌創面ヨリ入リテ害ヲナスニ因

ル、病菌ハ間々空中ニ飛揚スルカ故ニ創面ヲ開キ置ケハ忽チ之ニ附着ス、若シ夫レ手指モ消毒ヲ經ルニアラサレハ病菌ノ附着シ居ルコトヲ免レス、是ヲ以テ手指創面ニ觸ルルハ害アリ創面ハ速ニ消毒綿紗ヲ用ヰテ繃帶スルヲ要ス

創面ニ種々アリ左ニ其大要ヲ揭ク

一、挫創トハ、撲ヲ挫キ又ハ捩リタル傷ヲ謂フ、其療法其部位ヲ安保シ冷水ニ投シ又ハ冷水ヲ手巾其他ノ布片ニ浸シテ之ヲ冷スヘシ、表皮ヲ破リシ創アラハ繃帶包中ノ消毒綿紗ヲ創面ニ當テ其上ニ殘ノ綿紗ヲ重子頸巾狀帶ヲ用ヰテ堅ク卷キ其末ヲ結ヒ又ハ止針ヲ用ヰテ縫ヒ止ムヘシ

二、砲彈ノ創ヲ砲創、銃丸ノ創ヲ銃創、白兵ノ創ヲ截創及刺創トナス、此等ノ諸創ハ先ツ衣ヲ脫カシメ場合ニ依リテハ剪刀、銃劍ヲ用ヰ縫目ニ沿ヒテ創處ニ當ル衣ヲ切開キ創ノ大小ニ應シテ消毒綿紗一枚又ハ二

三枚ヲ創口ニ當テ頸巾狀帶ヲ卷クヘシ、創口二箇所以上アルトキハ一枚宛消毒綿紗ヲ各口ニ當ツヘシ、出血甚シキトキハ止血ノ後消毒綿紗ニテ創口ヲ被ヒ頸巾狀帶ヲ用ヰテ固ク卷クヘシ、總テ手臂ニ創ヲ受ケタルトキハ止血法ヲ施シ更ニ胸ノ釦ヲ外シテ手尖ヲ懷ニ入レ繃帶、又ハ劍帶或ハ手拭ヲ用ヒテ是ヲ胸前ニ吊リ以テ傷處ノ動搖ヲ防クヘシ、

腹部ノ截創ナル時ハ座位或ハ仰臥セシムヘシ

三、何創ヲ問ハス骨ヲ損シタルモノヲ骨折ト云フ、臂、脚ノ如キ長キ部ノ骨折ハ平常曲クヘカラサル處曲カリ又ハ其上下ヲ握リテ微ニ動セハ軋音ヲ聞キ刺痛ヲ覺ユ此骨折ヲ雖ネタルモノニハ創傷ナキ面ニ副木ヲ當テ繃帶スルコトヲ要ス、副木ナキトキハ樹皮葉束薄板、劔鞘、銃ノ一部等ヲ副ヘ固ク其上下端ヲ縛シテ其上ニ繃帶スヘシ脱臼ハ患部ヲ安休スヘシ

四、何創ヲ問ハス皮膚破レタル處ニハ手指等ヲ觸ルヘカラス、外物創面ニ附着シテ之ヲ汚スコト甚シキ時ハ消毒綿紗ニテ拭ヒ去ルモ妨ケナシ、血液凝着シタルトキハ之ヲ剝キ取ルヘカラス、又水ニテ創面ヲ洗フヘカラス、銃丸衣片ナト傷口ニ顯ルトモ除去ヲ試ミルヘカラス其儘消毒綿紗ヲ用ヰテ之ヲ掩ヒ繃帶シテ醫官ノ許ニ送ルヘシ

五、何創ヲ問ハス始メ消毒綿紗ヲ用ヰテ周密ニ處置スルトキハ治癒速ニ且完全ナリ、之ニ反シテ初メテ創面ニ手ヲ觸ルルトキハ後ニ如何ニ完全ナル療法ヲ施スモ好結果ヲ得難シ

第二　止血

一、戰場ニテ士卒ノ死スルモノハ出血ニ因ルコト多シ、故ニ血ヲ止ムル法ハ頗ル緊要ナリ、出血ニ二アリ創ノ全面ヨリ平齊ニ出血シ其量多カラス其色暗紅色ニシテ迸出セサルモノヲ靜脈出血ト名ケ、創面ヨリ鮮

紅色ノ血迸出シ其量多キモノヲ動脈出血ト名ク、大ナル動脈ノ出血ハ早ク之ヲ止ムルニアラサレハ暫時ニシテ命ヲ殞サシムルモノナリ

靜脈出血ニハ、消毒綿紗ヲ創面ニ當テ指ニテ強ク壓シ血ノ止マルヲ見ハ更ニ消毒綿紗二枚ヲ其上ニ覆ヒ堅ク繃帶スヘシ

動脈出血ニハ、其部ヲ高ク保持セシメ先ツ綿紗一二枚ヲ丸メテ血ノ出ツル處ニ當テ指ニテ強ク壓スヘシ、若シ血止マラサルトキハ創處上部ノ動脈通路ヲ壓スヘシ

其部位左ノ如シ

一、指ノ出血ニハ其指根ノ兩側ニ拇指ト食指トヲ當テ撮ムヘシ

二、手臂ノ出血ニハ、上膊内側ナル淺溝中搏動アル處ニ食指、中指及環指ヲ當テ掌ヲ前面或ハ後面ニ廻シテ握リ指頭ニテ壓スヘシ

三、傷者自ラ之ヲ行フニハ拇指頭ノ上膊ノ内側ナル淺溝ニ當テ手掌ヲ

前面ニ廻ラシ握リ拇指頭ニテ壓スヘシ

四、上膊ノ上部或ハ腋下ノ出血ニハ、頸ノ下鎖骨ノ上窩ニ拇指ヲ當テ深ク内下方ニ壓スヘシ

五、口ノ近傍ノ出血ニハ頸ノ下顎骨角ノ稍前方ヲ骨ニ向テ強ク壓スヘシ

六、脚ノ出血ニハ、鼠溪ノ中央下ニ兩拇指ヲ當テテ壓スヘシ

七、上法ニテ久シク壓スルトキハ手指疲レ又醫官所在ノ地ニ赴カントスルニ便ナラサレハ、即チ左法ヲ以テ之ニ代ヘシ、栗大ノ小石ヲ布ニ包テ當テ其上ヲ手拭等ニテ緩ク卷キ末端ヲ結ヒ之ニ劍鞘、木竹、懷中小刀、棍棒狀物ヲ挾ミ回轉シテ血止マルニ至リ挾ミタルモノノ一端ヲ止メ置クヘシ

第三　繃帶包及其使用法

一、凡ソ創面ハ前ニ述ヘタル如ク無毒ナルモノ若クハ消毒シタルモノニアラテハ觸ルヘカラス平居ノ際ト雖モ無毒ナルモノト消毒シタルモノトハ得易カラス況ンヤ戰ニ於テ殊ニ然リ故ニ消毒綿紗ヲ裹ムニ澁引紙ヲ以テシ更ニ三角巾ヲ其上ニ被セ止針ニテ止メ是ヲ上衣ノ裾角ニ納メ以テ負傷時ノ要ニ備フ此繃帶法ハ必要ニ望ムニアラサレハ開キ見ル事ヲ禁ス何トナレハ其効能ヲ失ヘハナリ

二、繃帶包ハ外ヨリ之ヲ分解スル時ハ左ノ如シ

(一)外包ハ三角巾、(二)澁引紙、(三)消毒綿紗三枚ナリ此消毒綿紗三枚ハ銃丸ニ射貫カレタル時一枚ヲ射入口ニ一枚ヲ射出口ニ當ツ他ノ一枚ハ萬一過チテ地上ニ落シ又ハ之ヲ汚シタル時ノ豫備ナリ而シテ之ヲ用ユルニハ外面ヲ指ニテ摘ミ內面ヲ傷ニ當ルヘシ(創面ニ當ル面ハ指ニ觸ルヘカラス)

三、創傷處置ノ際ハ先ツ被服ヲ解キテ創ヲ見若シ副木ヲ要セハ之ヲ準備シ然ル後繃帶包ヲ解キ順序ニ整頓シテ所要ノ形ニシ綿紗ヲ創面ニ當テ澁引紙ニテ被セ三角巾ニテ繃帶シ止針ニテ止メ或ハ　ヰ端ヲ結フヘシ

四、三角巾ハ或ハ開キタルママ之ヲ用ヰ或ハ尖頂ヨリ順次半折シテ幅二寸計リノ片トナシテ之ヲ用ユ而シテ後者ヲ頸幅狀帶ト名ク

五、繃帶ノ方法左ノ如シ

(一)眼耳額頰頸手足ノ小サキ創ヲ卷キ或ハ骨傷ニハ竹木等ヲ副テ頸幅狀帶ヲ以テスヘシ

(二)頭ノ創ヲ卷クニハ、開キタル儘其中央ヲ頭項ニ置キ下緣ヲ額ニ當テ兩端ヲ頭後ニ廻シ交叉シテ額ニ戻シ結ヒテ止メ後ニ垂レタル三角部ヲ折反シテ頭項ニ至リ止針ニテ縫止ムヘシ

(三)胸創ニハ、巾ノ中央ヲ胸部ニ當テ尖頂ハ患側ノ肩ヲ越サセテ後ロ

ニ引キ下緣ニテ胸圍ヲ纏ヒ兩尖尾左右ノ腋下ヨリ背ニ廻ハシテ結ヒ更ニ肩ノ後ロニ垂レタル尖頂ト尖尾ノ末ヲ結フヘシ

(四) 背創ノ卷キ方ハ、胸創ニ同シ唯後ロヨリ掩ヒ前ニテ結フヲ異ナリトス

(五) 臀部ノ創ヲ卷クニハ、尖端ヲ上方ニ向ケ下緣ニテ大腿ヲ纏ヒ後上方ニ向ケタル尖端ヲ帶革等ノ下ニ通シ折反シテ止針ニテ止ムヘシ

(六) 手ノ創ヲ卷クニハ、三角巾ヲ二ツニ疊ムカ又ハ折反シ或ハ切リテ小サキ三角形トナシ長緣ヲ手首ノ方ニ向テ手ノ下ニ敷キ尖頂ヲ折反シテ手ヲ被ヒ次テ兩端ヲ交叉シテ手首ヲ纏ヒ結フヘシ

第四 急病

一、卒倒

衣袴ノ釦ヲ外シテ開キ胸腹ヲ緩メ頭及上半身ヲ稍高クシテ安臥セシメ

(但シ顏面蒼白ナル者ハ上半身殊ニ頭ヲ低クシ下半身ヲ高クス) 冷水ヲ手拭ニ浸シテ輕ク心臟部ヲ叩キ又冷水ヲ顏ニ灌キ (室內ハ空氣ノ流通ヲ善ス) 醒覺スルニ及テ冷水ヲ飲マシムヘシ若シ醒覺セサレハ人工呼吸法ヲ行フヘシ

二、日射病

日射病ハ發汗甚シク皮膚熱シ顏面赤ク或ハ蒼ク呼吸迫リ終ニ人事不省トナリテ倒ルルモノナリ、之ヲ救フニハ涼シキ木蔭又ハ屋內ニ移シ衣服ヲ解キ上半身ヲ高ク安臥セシメ冷水ニ手巾ヲ浸シ頭胸ヲ被フヘシ、尙醒覺セサルトキハ冷水ヲ全身ニ灌キ或ハ冷水ニ浴セシメ又呼吸止ミタル者ニハ人工呼吸法ヲ行フヘシ

三、凍傷

雪、氷若クハ冷水ヲ用ヰテ久シク摩擦スヘシ決シテ急ニ溫ムヘカラス、

水泡ヲ生シ又ハ暗黑色ヲ呈スルトキハ其處置火傷ニ同シ

四、凍冱假死

皮膚蒼白、四肢、耳、鼻等强ク剛タハリテ倒ル、之ヲ救フニハ冷水若クハ風ナキ木蔭ニ移シテ衣服ヲ除キ雪又ハ冷水ヲ用ヰテ全身ヲ輕ク柔カニ摩擦シ或ハ冷水ニ浴セシメ諸部ヲ摩擦シ四肢柔軟ナルニ至テ人工呼吸法ヲ行ヒ尙絶ヘス摩擦シ呼吸復スレハ蓐ヲ被ヒ次第ニ厚キヲ加ヘ又室ヲ煖ムヘシ、夾シテ急ニ煖ムヘカラス

第五　人工呼吸法

其法、患者ヲ平臥セシメ口ヲ開キ舌ヲ引キ出シ救者ハ頭邊ニ脆キ兩手ニテ患者ノ肘ヲ捉ヘテ頭上ニ擧シメ空氣ヲ肺中ニ吸入セシムルコト約ネ二秒時トス

次テ急ニ患者ノ臂ヲ下ケテ胸側ニ壓シ付ケ肺中ノ空氣ヲ呼出セシムルコト亦二秒時トス

但シ呼出ノ際ハ、助手ヲシテ兩手ノ掌ニテ胸前及心窩ヲ壓セシムヘシ、

此ノ如ク反覆スルコト數百回患者自ラ呼吸スルニ至テ止ムヘシ

仰臥ノ際、顏色暗紅ナル者ハ其頭ヲ高クシ、蒼白ナル者ハ之ヲ低クスルコトヲ勉ムヘシ

第二編

第一章

第一節　各個散兵

各個散兵ニ就テ教習ス可キ件

銃ノ下ケ方

障害物超越

隆蔽シテ潛行（身體ヲ屈シ又ハ匍匐シテ地物利用）

射擊ニ臨ミ目標發見ノ迅速

適當ナル位置撰定

地物利用裝塡ノ迅速照尺裝置ノ正確

諸種ノ姿勢及各距離ニ應スル据銃ノ敏捷照準時間ノ短少

精神沈着及困難ナル目標ニ對スル照準ノ熟練

第二節　射撃軍紀

射撃軍紀トハ射撃指揮ヲ完全ナラシムル爲メ火戰中射撃ニ關スル戰鬪動作ト命令ヲ確實ニ實行シ銃ノ使用法ヲ嚴守スルヲ云フ而シテ特ニ要求スヘキ件次ノ如シ

敵火ノ下ニ在リテハ沈着堅忍シ銃ノ命中効力ヲ增大スル爲メ地形ノ利用及發射ノ時機ト方法トニ注意シ常ニ其指揮官及敵兵ニ留意シテ目標消滅スルカ或ハ指揮官ノ小笛若シクハ他ノ方法ニ依リ射撃停止ノ命令アルトキハ速ニ射撃ヲ停止シ得ヘク又例令指揮行ハレサル場合ニ於テモ各兵卒ノ思慮ト判斷トニ基キ依然射撃ノ効力ヲ維持シ得ルコト

第三節　射撃速度

(1)　並射撃

並射撃ハ目標ノ景況彈藥ノ現數氣象及射手ノ精神ト體力ノ狀態ニ依リ差

アリ若シ希望ニ叶ハサル時ハ「徐カニ」「活潑」ニト號令シテ規正ス

(2)　急射撃

急射撃ヲ用ユル場合

突撃前ニ於ケル最後ノ射撃又ハ敵ノ突撃ヲ撃攘セントスルトキ

保壘・落森林等ノ戰鬪ニ於テ俄然敵ト衝突セントキ

敵ヲ驅逐シ直ニ追撃射撃ヲ行フトキ

第四節　射撃ノ種類

一齊射撃ハ軍隊ヲ掌握シ時トシテハ彈着點ヲ認識シ照尺ノ撰定ヲ容易ナラシムルノ利アリ然レ𪜈戰鬪ノ喧噪ナルニ方リテハ蜜集セル小隊ト雖モ尚聲音ヲ達セシムルコト難ク散開セル小隊ニ於テハ一層困難ナリトス故ニ一齊射撃ハ有効ナル敵ノ射撃ヲ被ラサル時機ニノミ應用シ得各個射撃ハ多クノ場合ニ用ユルモノトス而シテ並急ノ二種アリ

第五節　中隊ノ散開

中隊ハ戰鬪ノ單位ニシテ戰鬪ヲ開始スルヤ散兵ト援隊トニ區分ス散兵ハ一小隊若シクハ二小隊ヲ散開ス又三小隊ヲ全部散兵トスル場合モアリ散兵ハ第一線ニ在テ火戰ニ從事ス

援隊ハ散兵線ヲ擴張シ或ハ之ヲ援助シ又敵襲ノ患アル側面ヲ掩護ス

散兵線ノ增加

小隊ハ中隊長ノ命ニ依リ小隊長ノ號令ヲ以テ散開シ延伸增加ニ在リテハ散兵線ノ翼ヨリ約八歩ノ間隔ヲ存スル如ク伍間增加ニ在リテハ散兵線内ノ間隔ニ入ル如ク其位置ニ到ル伍間增加ニ在リテハ各小隊長ハ部下ヲ區分シ各分隊長モ亦其部下ヲ區分スヘシ

援隊ト散兵線トノ距離

援隊ト散兵線トノ距離ハ狀況ニ依リテ定マルモノニシテ一定ノ標準ヲ設クルヲ得ス其主トスル所ハ機ヲ失セス散兵線ヲ援助シ得ルニ在リ

第六節　中(大)隊ノ基本隊形

中隊ノ横隊　二列ニ編成シ之ヲ三小隊ニ分ツ此隊形ハ整列及運動ニ用ユ

中隊縱隊　各小隊互ニ八歩ノ距離ヲ存シ前後ニ重疊ス時宜ニヨリ八歩ノ距離ヲ伸縮スルヲ得此隊形ハ運助及集合ニ用ユ

大隊縱隊　各中隊ハ中隊縱隊ヲ以テ八歩ノ距離ヲ存シ前後ニ重疊ス此隊形ハ集合及運動ニ用ユ

縱隊横隊　各中隊ハ中隊縱隊ヲ以テ八歩ノ間隔ヲ存シ左右ニ並列ス縱隊横隊ハ地形又ハ狀況ニ由リ縱長ヨリモ正面ノ廣キヲ要スルトキノミ集合及運動ニ用フ又別命アラサレハ戰鬪後ノ集合隊形ニ用フ

第七節　歩兵ノ性能及其戰鬪手段

歩兵ハ小銃ト銃劍ヲ以テ徒歩ヲ以テ戰鬪ヲ爲ス兵種ニシテ尙ホ人ノ通過

シ得ル地ニ於テハ如何ナル所ト雖モ戰鬪シ得ルヲ要ス又歩兵ノ戰鬪ハ頗ル靭强ノ性質ヲ有シ且ツ至大ノ犧牲ヲ供スルモノナルカ故ニ歩兵ハ其體力及氣力ニ於テ堅忍持久ヲ要スルコト亦甚大ナリ殊ニ勝敗將サニ岐レントスル時ハ戰鬪ノ慘狀モ亦其極ニ達スル者ニシテ此際克ク奮鬪ヲ繼續セハ已ニ我ト同一若シクハ其以上ノ苦境ニ在ル敵ヲシテ此抗抵ヲ斷念セシメ以テ光輝アル勝利ヲ獲ルニ至ル者トス而シテ白兵戰ハ決勝ノ爲メ有効ニシテ欠クヘカラサルモノニシテ火戰ハ戰鬪經過ノ大部分ヲ占ムルモノトス而シテ完全ノ火力ヲ發揚スルハ散開隊形ニ若ク者ナシ

第八節　散開隊形及蜜集隊形ノ利害

散開隊ノ利害

利

容易ニ地形ヲ利用シ得

害

指揮困難ナリ

銃ノ使用ニ便ナリ

敵火ニ對スル目標小ナリ

運動自由ニシテ進退速カナリ

蜜集部隊ノ利害

利

狹少ノ地ニ集結シ得

團結力ニ富ム

指揮容易ナリ

志氣旺盛ナリ

害

一地ニ集合困難ナリ

團結力ニ乏シ

武器ノ使用困難ナリ

目標大ナリ

第九節　中隊戰鬪正面

決戰ヲ行フト持久ヲ爲ストニ依リ差アリト雖モ決戰ヲ行ハントセル正面ニ於テ終始散兵ノ密度ヲ適當ニ維持セントスレハ戰時人員中一中隊ハ

百五十米突ヲ適度トス

第十節　戰鬪間小隊長ノ任務

小隊長ハ其小隊ヲ射擊ニ便ナル位置ニ部署シ躬ラ射擊ノ指揮ニ便利ナル地ニ占位シ與ヘラレタル指示ニ從ヒ又ハ獨斷ヲ以テ射擊目標ヲ規定シ常ニ敵ノ動靜ニ注意シ使用スヘキ彈藥ヲ顧慮シ以テ射擊ノ應用ヲ適切ナフシメ且ツ戰鬪線中隣接セル諸小隊ト協力スルヲ勉ムヘシ

第十一節　戰鬪間分隊長ノ任務

分隊長ハ小隊長ヲ補翼スル責任アルノミナラス屢々小隊長ニ代リテ指揮スルコトアル者トス分隊長ハ部下ヲ誘導シテ適當ナル位置ニ就カシメ武器ノ使用就中照尺ノ裝置彈藥ノ消費及命令ノ普及ト實行ニ關シ其責ニ任ス此他分隊長ハ必要ニ應シ自ラ射擊ヲ行フ者トス

戰鬪久シキニ亘リ多數ノ將校ヲ失ヒタル爲メ射擊ノ指揮屢々完全ナラサ

ルコトアリ斯ノ如キ場合ニ於テハ分隊長ノ動作ハ散兵線ニ著大ナル影響ヲ與フ

第十二節　戰鬪間兵卒ノ動作

兵卒ハ至難ノ行軍及勞働ヲ爲シ困苦缺乏ニ堪ヘタル後戰鬪ニ移ルヲ常トス而シテ戰鬪ハ往々數晝夜ニ亘ルヲ以テ一層困難ノ度ヲ增加ス故ニ兵卒ハ剛毅勇猛ニシテ思慮果斷及自信ニ富ミ連續セル困苦缺乏ヲ排シテ歩兵戰鬪ノ慘烈ナル感情ニ耐ヘサル可ラス

散兵線中ノ兵卒ノ任務ハ重大ナリ故ニ兵卒ハ機敏ニ耳目ヲ活動シ瞬間ニ判斷シ常ニ獨斷專ヲ處シ全力ヲ盡スヘシ散兵ニ自由ヲ與フルハ之カ爲メナリ

兵卒前進中敵火ノ許ニ在テ命令ナク停止スルハ嚴禁ナリ

總テ退却ハ殲滅ニ陷ル者ニシテ猛烈果敢ナル攻擊ハ常ニ成果ヲ得ヘシ

防禦ニアリテハ兵卒ハ忍耐シテ其位置ヲ固守シ彈藥ヲ節用シ敵兵愈々前進接近シテ効力アル時使用スヘシ

兵卒ハ彈丸ヲ射耗シテモ尚銃劍ニ依リ勝利ヲ求ムルコトヲ努ムヘシ

任務ヲ帶ヒス負傷セスシテ漫リニ戰鬪部隊ノ後方ニ停止シ又ハ戰鬪中命令ナク負傷者ヲ看護若シクハ運搬スル時ハ刑法ニ處セラル可シ

其所屬部隊ノ所在ヲ失フトキハ直ニ最近ノ戰鬪部隊ニ合シ其將校ノ命令ニ從ヒ戰鬪終ル後直チニ其所屬部隊ニ復歸スルヲ要ス

負傷シテ戰鬪ニ耐ヘサル時ハ其彈藥ヲ戰友ニ交付シ上官ノ許可ヲ得テ後退スヘシ

戰鬪悲慘ノ情況中氣力ヲ失ヒ或ハ思慮ニ堪ヘサル兵卒ハ其所屬將校ヲ仰視スルヲ要ス將校不在ナルトキハ下士又ハ勇敢ナル兵卒ヲ標準トナシ身ヲ處スヘシ

第十三篇　各兵種ニ關スル動作

歩兵ハ其近傍ニアル砲兵ノ危急ニ際シ常ニ之ヲ救援スルノ義務ヲ有ス

攻擊ノ爲メ前進スル歩兵已ムヲ得ス放列線ヲ通過セサルヘカラサルトキハ成ルヘク其射擊ヲ妨害セサル手段ヲ撰用スヘシ

特種ノ工事及其破壞ハ工兵ノ協力ヲ要スルコト多シ然ルトキハ工兵將校若クハ下士ノ指示ニ從フヘシ

一、騎兵ニ對シ

歩兵ハ一人ト雖モ優勢ナル騎兵ニ對シ成功ヲ期シ得可シト雖モ沈着シテ射擊セサレハ不可ナリ

騎兵襲擊シ來ラハ地形ヲ利用シ前面ニ障害物ヲ具ヘ沈着シテ乘馬ヲ射擊シ次ニ兵ヲ射擊スヘシ

騎兵徒歩戰ヲ爲シ在ル時手馬（徒歩戰ヲナシアル騎兵ノ今迄乘リ居リ

シ馬ヲ若干騎兵ニテ保持スルモノヲ云フ）ヲ射撃スルコトヲ得ハ其効果大ナリ

二、砲兵ニ對シ

砲兵ニ對スル戰鬪ハ遠距離ニ於テハ砲兵ハ其火力歩兵ニ優リ凡ソ千米突ノ距離ニ至テ始メテ其効力相等シク是ヨリ以下ノ距離ニ於テハ歩兵ハ砲兵ニ優ルモノトス

砲兵運動中或ハ前車解脫連結ノ際之ヲ射撃シ得レハ妙ナリ又砲兵運動中ハ輓馬ヲ次ニ人員ヲ射撃ス砲火ヲ受クヘキ地帶ヲ運動スル歩兵ハ最初成ル可ク正面ヲ狹少ニシ砲兵ノ照準ヲ困難ナラシメ有効火ヲ受クルニ至ラハ疎散ノ隊形ヲ用ユヘシ

三、輜重

大行李等ノ縱列ヲ襲フ時ハ先頭ヲ射撃スヘシ

第二章　射撃

第一節　射撃上天候及光線ノ惑及

偏移＼原因	風	光線	天候	溫度	氣壓
右編	左側方	左側方			
左編	右側方	右側方			
增	後方ヨリ		曇天霧 曉暮	暑夏	濃高
減	前方ヨリ			寒冬	淡低

第二節

側方ニ移動スル目標ニ對スル照準點（三十八年式歩兵銃）

距離＼目標	速歩歩兵	駈歩歩兵	常歩乗馬兵	速歩乗馬兵	駈歩乗馬兵
二〇〇	〇、五〇	〇、八〇	〇、五〇	一、二〇	一、七〇
三〇〇	〇、八〇	一、三〇	〇、八〇	一、九〇	二、七〇
四〇〇	一、一〇	一、九〇	一、二〇	二、七〇	三、九〇
五〇〇	一、五〇	二、五〇	一、五〇	三、六〇	五、二〇
六〇〇	一、九〇	三、二〇	二、〇〇	四、六〇	六、六〇

備考　本表ハ目標ノ中央ヨリ前方ヲ照準スヘキ尺度

第三節　三十八年式歩兵銃ノ性能

速率　銃口前二十五米ニテ六百七十八米

最大射距離　四千米突

射角　約三十二度

附表第三

彈丸侵

物質ノ種類＼距離	200米
尋常積土	1,000米乃至1,200米
踏固セル雪	1,300乃至1,900
砂	0,500乃至0,600
乾燥セル松	0,850乃至1,100
乾燥セサル松	0,700乃至0,850
槻(木質堅硬ノモノ)	0,350乃至0,500
煉瓦	0,035乃至0,045
五寸密米鐵鈑	通貫
五寸密米軟鋼鈑	通貫

量徹

600米	400米
米0,700乃至米0,850	米0,850乃至米1,000
0,750乃至1,000	0,900乃至1,150
0,300乃至0,400	0,400乃至0,500
0,400乃至0,550	0,600乃至0,800
0,350乃至0,450	0,500乃至0,600
0,120乃至0,160	0,200乃至0,300
	0,022乃至0,035
深サ三十五密生ノ痕ヲ生ス乃至七密米凹	深サ十七密生ノ痕ヲ生ス乃至三密米凹
僅ニ凹ミカ痕跡ヲ	深サ四密生ノ痕ヲ生ス乃至七密米凹

第四節　距離測量

一、距離ノ名稱

近距離トハ六百米突以内

中距離トハ六百米突ヨリ千米突迄

遠距離トハ千米突以上ヲ云フ

二、音響測量

光ノ目ニ入ルハ音ノ耳ニ入ルヨリ一秒時間三百卅三米突速カナリ故ニ硝煙若クハ火光ヲ見ハ直ニ一二三四……ト口誦ナシ音響ヲ聞キ之ヲ止メ其節調ノ數ニ依テ距離ヲ知ル例ヘハ三迄唱ヘシトキハ三百米突ナリ口誦節調ノ速度ハ三秒間ニ一、二、三、四、五、六、七、八、九、十タケヲ數フル如ク熟練シアルヲ要ス

三、目測ヲ誤ル場合左ノ如シ

近ク誤ル場合

天氣晴朗ナル日

大陽ヲ背後ニセルトキ

遠ク誤ル場合

炎熱ノトキ曇天、濃霧、曉、暮、

太陽ニ面スルトキ

目標ノ背後明瞭ナルトキ　目標ノ背後暗黑ナルトキ
平坦地、水面、波狀地　森林內
遠隔セル明瞭物　狹長ナル土地
特ニ中間ノ土地通視シ得サル時　一部ノミ見ユル敵

四、諸距離ニ於ケル軍隊ヲ望見スルトキハ左ノ如シ

三千米突　稍高地ニアレハ平原內ノ蜜集運動ヲ明知ス
一千二百米突　歩兵ノ隊伍ヲ區別シ騎兵ノ乘馬又ハ下馬ヲ知リ砲列ヲ見ル
九百米突　隊伍ヲ明瞭ニ分別ス
八百米突　腕及脚ノ運動帽飾ヲ知リ馬頭及白色ノ服裝ヲ區別ス
六百米突　歩兵ノ上部及馬脚ノ運動ヲ區別シ軍隊ハ伍ニ依リ正面ヲ知ル

四百米突　馬ノ毛色人ノ腕部及脛ヲ識別ス
三百米突　帽ノ輝飾肩飾ノ光色部ヲ見ル
二百五十米突　顏及帶ノ眞鍮及靜止スル脚ノ間隔ヲ知ル
百五十米突　手服裝ノ釦鈕光色ノ組紐
百米突　面部中眼目ノ位置ヲ知ル

第五節　戰鬪射擊

一、各個戰鬪射擊ニ於テハ主トシテ左ノ諸件ヲ要求ス

一、目標ノ發見ヲ迅速ニスルコト
二、適當ニ位置ヲ選定シ地物ヲ利用スルコト
三、目標ヲ適當ニ選定スルコト
四、速・距離ヲ測定スルコト
五、効力ヲ期シ得ヘキヤ否ヤヲ判斷スルコト

六、照尺及照準點ヲ選定シ或ハ之ヲ修正スルコト

七、如何ナル姿勢ニ於テモ据銃ヲ敏捷確實ニスルコト

八、短少時間ニ精密照準ヲ爲シ得ルコト

九、精神ヲ沈着シ熟慮シテ發射スルコト

二、目標ノ撰定

我ニ最モ多クノ危害ヲ與フルモノ

速ニ殲滅セシメント欲スルモノ

効力大ナルモノ

三、目標ノ分配

射擊目標ハ中隊ノ擔任スヘキ敵ノ正面ヲ以テ其限界ヲ指示ス

隣接部隊ノ目標ト其正面互ニ稍々重複スルモ間隙ヲ存セシメサルヲ要ス

特別ノ場合ニハ小隊時トシテハ半小隊ニ區分スルヲ必要トスル事アリ

四、照尺ノ撰定及照準點

混用照尺ハ小隊ニ充タサル部隊ニ在リテハ利益ナシ

照尺度ト合致セサル中間距離ニ在ル目標ニ對シテハ通常其距離ト差ノ少キ照尺ヲ採ル

照準ハ下際ニ採ルヲ通常トス

五、兵卒射擊目標ニ對スル心得

目標中已ニ正對セル部分ニテ比較的明瞭ナルモノニ射擊ス

敵ノ躍進部隊ノ如キ者アラハ別命ナク之ヲ射擊ス

敵ノ散兵線ノ後方ニ有利ノ目標現出セハ其目標ノ前方ニアル散兵ヲ射擊スルコト

目標不明ナル時ハ其附近ノ地物ヲ射撃スルコト

六、指揮官ノ射撃ニ對スル心得

目標ノ變換ハ戰術上特種ノ顧慮ヲ要セサルトキ之ヲ變換スルコト現狀ヲ持續スルト同一時間内ニ於ケル効力ヲ比較スヘシ

目標ノ指示困難ナルトキハ其附近ノ地物ヲ目標指示ノ補助タラシムヘシ目視困難ナル目標ニ在リテハ其目標ノ背後ニ在ル森林ノ如キ補助目標ヲ照準セシムルヲ有利トス

七、分隊長ノ指揮法

適切ナル射撃位置ニ部下ヲ誘導スルコト

距離測量及照尺ノ選定

敵狀ノ監視及射撃効力ノ觀測

地物ノ利用武器ノ使用及照尺ノ裝置部下戰鬪動作ノ監視

第三章　工事

第一節　工事ノ目的

野戰築城ノ目的ハ軍隊ノ戰鬪力ヲ保持シ常ニ我軍ヲシテ有利ナル形勢ニアラシムルニ在リ

攻擊ニ在テハ既ニ占領シタル地區ヲ維持シ或ハ堅固ナル陣地ニ對シ逐次ニ據點ヲ構成シテ敵ニ近迫スル爲築城ノ使用ヲ緊要トスルコトアリ又防禦ニ在リテハ寡少ナル兵力ヲ以テ靭强ナル抵抗ヲナシ或ハ防禦地區ノ兵力ヲ節約シ以テ攻勢動作ニ强大ナル兵力ヲ供用スル爲築城スルコト緊要ナリ

第二節　陣地ノ選定

一、陣地ノ選定ハ主トシテ我軍ノ目的及彼我ノ情況ニ依リ之ヲ決定ス

一、陣地内ニ多少不利ナル地形存在スル時ハ兵力ノ分配及工事ノ施設ニ

依リ之ヲ補フ

一、陣地ヲ選定スル時ハ常ニ攻者ノ位置ニ立チテ之ヲ判斷シ且成シ得レハ敵方ヨリ之ヲ觀察ス

一、陣地ノ廣袤ハ兵力ニ適應セサルヘカラス

一、射界廣濶ナルヲ要ス平坦ニシテ敵方ニ向ヒ等齊ニ降下セル高地ハ歩兵ノ陣地ニ適ス

一、正面前ノ强固ナル障碍ハ守者ノ運動ヲ妨ケ且敵ニ迂回セラルルモノナリ

一、側面ハ近接シ得サル地物ヲ要スルヲ可トス

一、内地後地ハ交通ニ便ナルヲ要ス

第三節　作業ノ準備

射界ノ清掃

展望及射擊ヲ妨クヘキ地物ハ爲シ得ル限リ之ヲ除去ス

距離測量　射界清掃ト共ニ一部ハ前地必要ナル點ノ距離測量ニ從事ス

距離測量ハ測器歩測若シクハ地圖ニ依テ著明ナル物體等ヲ測定ス若シ有効射界内ニ地物等ナキ時ハ樹枝ヲ植立シ或ハ立樹ノ皮ヲ削ル等種々ノ目標ヲ作リ以テ射擊ニ便ナラシム

第四節　作業力

不熟練ナル一作業手ノ圓匙ヲ以テスル一時間ノ掘土量左ノ如シ

軟土　一立米〇〇〇乃至一立米二〇〇

尋常土　〇立米七五〇

硬土　〇立米四〇〇

作業力ハ時間ノ長キニ從テ遞減ス故ニ四時間以上ニ亘ル作業ニ於テハ平均一時間ノ掘土量概ネ左ノ如ク算スルヲ適當トス

軟　土　〇立米七〇〇
尋常土　〇立米四五〇
硬　土　〇立米二〇〇

方匙ヲ使用スル時ハ其作業力ハ以上ニ比シテ約ネ三分二乃至二分ノ一ニ減少ス

凍結シタル土地ニ在テハ以上ノ三分ノ一乃至五分ノ一ニ減少ス

第五節　作業法

散兵壕ヲ構築スルニハ通常各中隊ニ於テ作業班ヲ組織シ方匙(圓匙)小十字鍬(十字鍬)ヲ携帶スル兵卒ヲ以テ土工ニ充テ其他ノ下士卒ハ距測離定經始線ノ標示其他特別ノ作業ニ用ヒ或ハ交代兵等ニ使用ス

中隊ノ部署ヲ行フ以前若クハ之ト同時期ニ中隊長ハ若干ノ將校下士卒ト共ニ堀開スヘキ散兵壕ノ火線ヲ決定シ兵卒ノ作業ニ就クヘキ準備終ルヤ

決定シタル線上ニ概ネ片手又ハ兩手ノ間隔ヲ以テ匙手ヲ配置シ尚ホ其後方ニ鍬手ヲ分配ス匙手ト鍬手トノ比例ハ土質ニ因テ決定ス作業手ノ配置終レバ各匙手ハ方匙(圓匙)ヲ近ク足尖ノ前ニ突キ入レ(銃ヲ携帶シアル時ハ之ヲ後方若干歩ノ所ニ置キ)右方隣兵ノ位置ニ至ルマテ小溝ヲ劃シ以テ壕ノ前線ヲ標示シ尚ホ同樣ニ壕ノ後線ヲ劃シ然ル後前線ヨリ壕ノ堀開ニ着手ス

作業手ノ交代ハ通常一時間以上ニ亘ル作業ニ限リテ之ヲ行フ者トス然レトモ其疲勞セル時及方匙ヲ以テ作業スル場合ニ在テハ適宜ニ交代時間ヲ早クスルヲ良トス

火戰中掩體ヲ構築スルヲ要スル時ハ方匙(圓匙)ヲ携帶スル散兵ハ銃ヲ後方身邊ニ置キ先ツ自己ノ掩體ヲ設ケ然ル後方匙(圓匙)ヲ有セサル比隣兵ニ交付シ再ヒ銃ヲ取テ火戰ヲ續行スヘキモノトス

第六節　散兵壕ノ記憶概數

散兵壕ノ種類　胸墻厚　内頂高　臂坐高　壕深　壕上幅

膝射　一米二〇　〇米三〇　〇米一〇　〇米五〇　一米五〇

立射　一、二〇　〇、五〇　〇、三〇　〇、八〇　一、五〇

胸墻ノ厚右ノ如クナルモ土質ニ因リ此厚ヲ以テ不充分ト認ムルトキハ壕ノ幅ヲ擴ク掘擴散兵壕ニ改築スヘシ

第七節　人工障碍物

一、人工障碍中最モ多ク野戰ニ應用スルモノハ左ノ如シ

一、鹿　砦（樹幹鹿砦ト樹枝鹿砦トニ區別ス）

一、鐵條網（樹立シタル杭ノ高サハ各不等ニシテ平均一米二〇其間隔モ亦不等ニシテ平均二米トシ八番鐵線（〇米〇〇四）若シクハ六番鐵線（〇米〇〇五）ヲ用ユ

第八節　編束物ノ種類

一、束　柴（其長サ四米太サ〇米二五以上ノ者ヲ作ラサルヲ常トス）

二、編　條（其編組部ノ幅員長サ二米高サ一米以上トナサルヲ常トス）

三、堡　籃（通常其外徑ヲ〇米六〇トシ編組ノ高サヲ約〇米八〇トス）

第九節　被覆ノ種類

一、斜草被覆　長幅共ニ約〇米三〇厚サ約〇一〇ニ截リ取リタル斜草ヲ用ユ

二、倍地編條　先ツ〇米三〇乃至〇米五〇ノ間隔ヲ以テ杭ヲ斜面脚ニ打込ミ要スレハ其上端ニ貫板等ヲ施シテ假ニ各杭ヲ連結シ然ル後編條ヲ交互ニ杭ノ前後ニ導キ之ヲ下方ニ壓迫シツツ編ミ上ケ要スレハ之ニ控ヲ施ス

三、束柴被覆　階段ニ應用スルヲ適當トス

四、編條被覆　各編條ヲ端々相接シテ斜面内ニ併列シ其杭ノ尖端ヲ斜面脚ニ打込ミテ控ヲ施シ又ハ長キ鈎杭ヲ以テ之ヲ固定スヘシ

五、堅實ナル土塊、石、磚石、土俵、土嚢、樽。箱、角材丸太板樹枝等凡テ被覆ニ應用スルヲ得

第十節　鐵道ノ破壞

大ナル破壞ハ通常之ニ鐵道隊若クハ工兵隊ヲ使用ス

數時間若クハ一、二日間ノ運行ヲ遮斷スルニ過キサル破壞ニハ主トシテ騎兵ヲ用ユ

歩兵ハ軌鐵ヲ除クカ如キ單簡ナル破壞ヲ行フニ過キス

軌道ヲ破壞スルニハ時機之ヲ許セハ軌道ノ諸部ヲ分解シテ其材料ヲ遠イ他所ニ輸送スルヲ良トス材料ヲ撤去シ難キ時ハ之ヲ燒棄ス其法軌道ノ諸材料ヲ分解セル後杭木ヲ井形ニ推積シ其内ニ燃料ヲ投シ之ニ軌道ヲ横架シテ點火セハ軌條ハ其重量ト火熱トノ爲メ屈曲シテ用ユルコト能ハス

鐵道ノ破壞ハ命令ナクシテ行フヘカラス電線ノ破壞モ亦然リ

第十一節　徒渉場ノ偵察及通過

徒渉場ハ多クハ河川ノ彎曲部若クハ河川ノ幅劇ニ增大シ細波ヲ生スル所ニヤルモノニシテ要スルニ此捜察ハ土民ニ質シ或ハ兩岸ノ車痕人馬ノ痕跡等ニ依ルヲ第一着トシ偵察者自ラ歩行或ハ騎行通過ヲ試ムルトキハ最モ確實ナリトス徒渉場ハ增水ニ由リ徒渉シ難キニ至ルコトアリ須ク注意スヘシ

各兵種ノ通過シ得ヘキ徒渉場ノ深サ歩兵〇米八〇以下騎兵ハ一米以下ニシテ河底ハ堅硬ニシテ流速緩ナルヲ要ス

野砲兵ハ約〇米四〇(彈藥ノ濕潤ヲ顧慮セサレハ約〇米八〇)山砲兵ハ約一米突

第十二節　氷上通過

結氷水面ニ密接シタルモノ或ハ融解時ニ至ラスシテ其抗力微弱ナラサル

トキハ間隔及距離ヲ披開シタル歩兵ノ通過ニハ厚〇米一〇側面縱隊ハ〇米一五騎兵ノ二伍縱隊ハ〇米一五ニシテ野砲兵ハ〇米二〇野戰重砲兵ハ〇米二〇ヲ要ス

氷厚充分ナラサル時ハ單獨歩兵ノ爲ニハ長キ薄板或ハ板ヲ釘着シタル梯子ヲ布キ騎兵ノ爲ニハ連接セル廣キ板ヲ布キ馬匹ハ一頭ツツ通過セシムルコトヲ得車輛ノ爲ニハ單ニ厚板ヲ布キ或ハ車輛ヲ橇上ニ載セテ通過セシムヘシ

結氷ノ季節ニ在テハ屢々水ヲ氷面ニ灌キ氷ノ厚ヲ增加セシムル之カ爲メ沙藁、氷片等ノ小堤ヲ設ケテ水ノ流失ヲ防クヘシ

第四章　方位ノ考察及偵察

第一節　方位ノ考察

磁石

正午太陽ヲ後ニシテ立ツ時其影ノ生シタル方ハ北ナリ

滿月ノ時ハ午前六時ニ西、夜半ハ南、午後六時ニハ東ニアリ下弦ノ時ハ右ヲ缺キ午前六時ニ南夜半ハ東ニアリ上弦ノ時ハ左方ヲ缺キ夜半ハ西午後六時ニハ南ニアリ

北極星ニヨリ北ヲ知ル

樹木道標等久シク一地ニ存在スル地物ハ其北ニ面スル部ハ日光ヲ受ケサルヲ以テ通常蘇苔ヲ生セリ

樹木ノ枝ノ茂レル方ハ南ナリ

樹木ノ切口即チ年環密ナル方ハ北ニシテ疎ナル方ハ南ナリ

時計ヲ以テ方位ヲ知ルニハ時計ヲ水平ニ持チ長針ヲ太陽ニ向ハシメ長針ト十二時ニ應スル半徑トニテナス所ノ角ノ平分線ハ即チ南ナリ

第二節　道路ノ偵察

一、道路外ニ展開シ得ルヤ否ヤ
二、敵ノ占領シ得ヘキ陣地
三、前進ノ爲メニ取ルヘキ隊形方向
四、道路ノ景況
五、河川橋梁通過ノ難易
六、道路外森林水田ノ景況

第三節　舍營地ノ偵察

一、廣狹及ヒ形狀
二、交通道路ノ廣狹街衢ノ多寡等

三、集合場ノ位置形況
四、飲用水
五、物質

第四節　露營地ノ偵察

一、所在
二、敵ニ對シテノ顧慮
三、形狀幅員
四、各露營地交通ノ便否
五、薪炭及其他供給物質

第五節　橋梁偵察

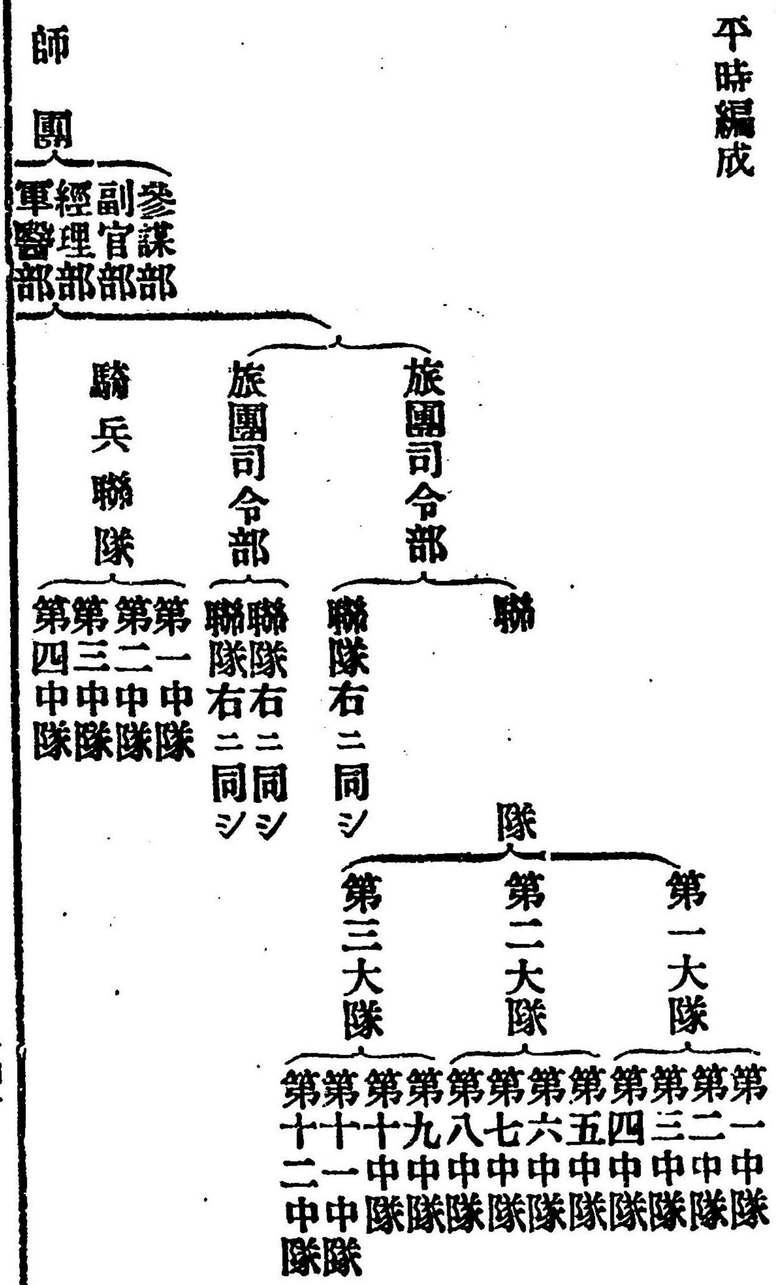
一、行進路ニ對スル位置
二、河川ニ對スル橋梁ノ位置

三、長短幅員抗力
四、兩岸ノ景況

第六節　河川ノ偵察

一、河川ノ廣狹水ノ深淺
二、河底ノ土質
三、兩岸ノ形況
四、水流ノ速力增減水ノ景況
五、橋梁徒涉場ノ有無等

平時編成



獸醫部
法官部

野砲兵聯隊
- 第一大隊
  - 第一中隊
  - 第二中隊
  - 第三中隊
- 第二大隊
  - 第四中隊
  - 第五中隊
  - 第六中隊

工兵大隊
- 第一中隊
- 第二中隊
- 第三中隊

輜重兵大隊
- 第一中隊
- 第二中隊

第六章　秋季演習ニ關スル要件

一、標識

損傷旗　射擊ノ爲メ効力アリテ損害ヲ被リタル爲メ標旗ヲ植立スルニハ散兵ト同姿勢ナルヲ要ス

假設旗　騎兵ハ白色ニシテ中隊ニ四旒ヲ携行ス

歩兵ハ赤色
砲兵ハ黃色　ニシテ中隊ニ各一旒ヲ携行ス

目標旗　是ハ砲兵ノ使用スル旗ニテ砲兵カ射擊ヲ指向ケツツアル部隊ノ種類ヲ示ス者ニテ歩兵ハ赤騎兵ニハ白砲兵ニ向フ時ハ建テス

統監旗　演習ノ統一ヲ司ル指揮官ノ所ヲ標示ス

徽章ハ左ノ上膊ニ纏フモノニシテ其規定左ノ如シ

統監部ニ屬スル者　白布
中立ノ者　黄布
陪觀將校及之ニ屬スル者　赤布

二、機動演習ノ種類

第一種　旅團演習（歩兵旅團内ノ各一聯隊ヲ基幹トセル混成支隊ノ相對抗スル演習）
第二種　師團演習（歩兵旅團ヲ基幹トセル混成旅團ノ對抗及假設敵ニ對スル師團ノ演習）
第三種　特別大演習（二個以上ノ師團ノ對抗）

機動演習ハ各兵種ヲ連合シテ行フヘキ野戰ノ演習ニシテ秋季野外教練ハ通常機動演習ニ先チ各團隊之ヲ行フモノトス

三、演習全般ノ中止

演習全般ノ中止ハ號音ヲ以テ之ヲ行フ此號音ハ統監若シクハ統監ヨリ高級ナル檢閲官ノミ吹奏ヲ命スルヲ得而シテ滿場ノ喇叭手ハ將校ノ命

ヲ待チ之ヲ遞吹スベシ

「氣ヲ付ケ」「止レ」ノ號音アルトキハ兩軍ハ單獨ノ散兵斥候等ニ至ル迄現在ノ隊形ヲ以テ其地ニ駐止シ而シテ再興ヲ待ツ者トス其後「休メ」ノ號音アレハ兩軍指揮官及專屬ノ高級審判官ハ統監ノ下ニ到リ徒歩兵ハ銃ヲ交叉シ騎兵及砲兵ハ下馬シ皆休憩スルコトヲ得

次テ「將校集レ」ノ號音アルトキハ總テ乘馬將校幷ニ統監ノ近傍ニ在ル徒歩將校又特別大演習ニ在テハ大隊長以上ノ各團隊長幷其參謀副官其他統監ノ近傍ニ在ル各將校ハ皆統監ノ下ニ集ルヘシ

「氣ヲ付ケ」「前ヘ」ノ號音アルトキハ演習ヲ再興スヘシ而シテ此號音ハ統監ノ下ニ集合シ諸將校ノ各其部隊ノ所在ニ歸着ソタル時期ヲ計リ之吹奏セシムルモノトス

「解レ」ノ號音アレハ演習ノ一段落ヲ報スルモノト知ルヘシ此號音アル

下キ各團隊ハ爲シ得レハ別命ヲ待タス其舍營若クハ豫定ノ地ニ赴クヘキモノトス

以上ノ號音ニ代フルニ氣球ニ依ル信號（赤球一個ヲ附スルモノハ「氣ヲ著ケ」「前ヘ」）ヲ以テシ「止レ」二個ハ「將校集レ」三個ハ「氣ヲ著ケ」ヲ併用スルコトアリ

又要スルトキハ號音ト信號トヲ

四、危害ノ豫防

危害ノ豫防ハ如何ナル場合ニ於テモ敵ヲ去ル百米以内ニテハ發火スルコトヲ禁ス故ニ突擊ヲ實施スル爲メ此距離内ニ近接シタル時ハ互ニ唯射擊ヲ爲スノ狀ヲ假爲スルノミ而シテ突擊ヲ實施スルトキト雖モ互ニ二十米突ヨリ近接スルヲ禁ス若シ此距離ニ近接セントスルニ際シ審判官其場ニ在サルトキハ兩軍駐止シ歩兵ハ立銃ヲ爲シ騎兵砲兵ハ下馬シ以テ審判官ノ判決ヲ待ツヘシ此際隊伍ノ靜肅ヲ維持シ命令ノ確實ニ行

ハルト否トハ其隊固有ノ實價ヲ表證スルモノトス

蓋シ突擊ハ一旦之ヲ行ハントスレハ其結局ニ至ル迄實施セサル可ラサル場合則チ攻者進ミテ近ク接迫スルモ守者ハ攻者ノ勢力未タ我陣地ヲ撤去スルニ足ラサルモノト認定シ審判官ノ判決ヲ待ツコトアルヲ以テ前項ノ規則ヲ恪守スルコト益々緊要ナリ

演習ニ於テハ家屋秣藁等ノ如キ火炎ノ虞アル近傍ニ於テ發火スルコトヲ禁ス故ニ村落防禦ニ於テハ其火炎ノ虞アル物ヨリ離隔シテ發火シ又要スレハ其據ルヘキ地物ノ前方ニ位置セシメ以テ其防禦ヲ假設スヘシ此ノ如キトキハ之ヲ指揮スル將校ハ實地ニ於テ爲スヘキ處置法ヲ詳ニ部下ニ教誨スルヲ要ス

氣球ノ近傍ニ於テ發火若クハ喫烟スルヲ禁ス

經費ヲ節減スル爲メ大部隊ノ演習ハ務メテ園廚及植物苑其他凡テ貴重

ナル諸苗種圃等ノ多キ地方ニ於テ之ヲ行フヲ避クヘシ而シテ其他ノ地方ト雖モ耕作物アル田畑ニ入ルコトハ勉テ之ヲ避ケサルヘカラス又鐵道ハ通路點ノ外超ユルヲ禁ス

初級幹部

陣中必携

終

陸軍軍隊符號

一　符號ハ著色スルヲ常トス但シ彼我ノ兩軍ヲ標示スル時ハ通常敵軍ニ赤色、我軍ニ藍色ヲ用ユルモノトス

二　本表ニ掲ケサル符號ハ臨時規定スル事ヲ得

三　本表ノ符號ハ地圖ノ梯尺、部隊ノ大小等ニ依リ適宜取捨スル事ヲ得

野戰ノ部

略字

A.　軍

D.　師團

B.　旅團

i.　歩兵

K. 騎兵
A. 野戰砲兵
K.B. 騎兵旅團
A.B. 砲兵旅團
S.A. 野戰重砲兵
P. 工兵
T. 輜重兵
B.St. 砲兵中隊段列
R.St. 砲兵聯隊段列
i.M. 歩兵彈藥縱列

A.M. 砲兵彈藥縱列
A.B.M. 砲兵旅團彈藥縱列
Pr. 糧食縱列
K.Pr. 騎兵旅團糧食縱列
A.Pr. 砲兵旅團糧食縱列
B.K. 架橋縱列
S. 衛生隊
F.L. 野戰病院

P.D.	馬廠
F.T.	野戰電信隊
E.T.	鐵道隊
T.St.	輜重梯隊
A.P.	警急集合場
G.AP.	警急大集合場
E.M.	兵站彈藥縱列
E.Pr.	兵站糧食縱列

Mg.	倉庫縱列
T.fA.	補助輸卒隊

近衛師團ノ諸部隊ニ在リテハGノ字ヲ畧字ノ先頭ニ附シ他師團ノモノト區別シ後備隊ニ在リテハ畧字ノ先頭(近衛ニ在リテハG字ノ次)ニL字ヲ附シ野戰隊ト區別スヘシ但シ近衛師團ノミニシテ他ノ師團後備隊ニシテ野戰隊ニ關係ナキ時ハ之ヲ附記スルヲ要セス」歩兵ノ畧字ハ他兵種ト混合スル患ナキ時ハ之ヲ省畧スルヲ得

隊標ヲ以テ標示スルニ方リ混合ノ患ナキ時ハ畧字ヲ省畧スルヲ得

例ヘハ

2/2 ⚌ 歩兵第二聯隊第二中隊

1/3 ⚍ 砲兵第三聯隊ノ第一中隊

1/2 ⊕ 衛生隊ノ二分ノ一

等ノ如シ

數字ノ規定

軍、師團、旅團、彈藥縱列、糧食縱列、野戰病院、輜重梯隊等ハ畧字ノ左傍ニ羅馬數字ヲ以テ番號ヲ附記ス例ヘハ第二糧食縱列 II.Pr. ノ如シ

歩兵大隊、騎兵中隊、砲兵大隊、工兵中隊ノ番號モ亦羅馬數字ヲ用ユ(歩兵及砲兵ハ中隊番號ニヨリ所屬大隊明了ナル時ハ大隊號ヲ用ヒス)

歩兵聯隊、騎兵聯隊、砲兵聯隊、工兵大隊、歩兵中隊并ニ砲兵中隊其他ノモノハ亞剌比亞數字ヲ用ユ但シ歩兵及砲兵中隊其他ノ者其上級部隊ノ番號ト併記スル時ハ斜線ヲ以テ相隔テ且ツ比較的ニ細書スヘシ例ヘハ歩兵第二聯隊ノ第三、第四中隊 3.4/2.i. 」諸兵種トモ小隊及分隊ヲ示スニハ中隊ヲ單位數トセル分數ヲ以テス而シテ分隊以下ノ分數ハ用ユル事ナシ又衛生隊及諸縱列等ニ在リテモ之ニ準ス例ヘハ

歩兵第三聯隊第九中隊ノ一小隊 $\frac{1}{3}$9/3.i.

騎兵第二聯隊第三中隊ノ一小隊

衛生隊半部

第一砲兵彈藥縱列ノ半縱列 $\frac{1}{2}$I.A.M. $\frac{1}{2}$S. $\frac{1}{4}$III/2K.

大ナル部隊若シ小ナル部隊ヲ缺キ數字ヲ以テ之ヲ示スコト却テ複雜ナル時ハ其缺キタル部隊ニ(一)ヲ附シ括弧内ニ之ヲ示スヘシ例ヘハ

1.5.6.8.9.11.12/3.i. ノ代リニ 3.i.(−7.10).

隊標

大本營
軍司令部
師團司令部

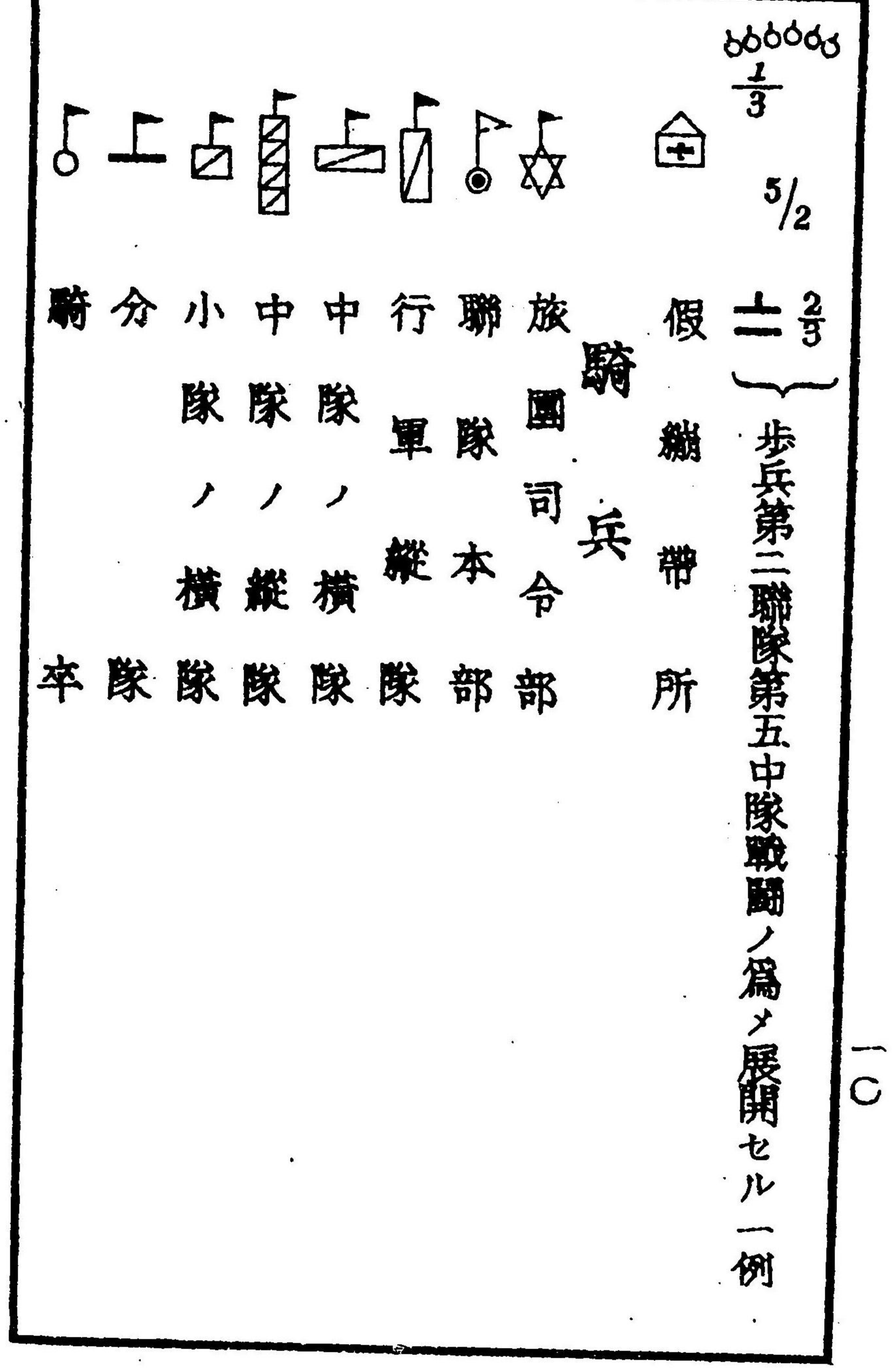
歩兵

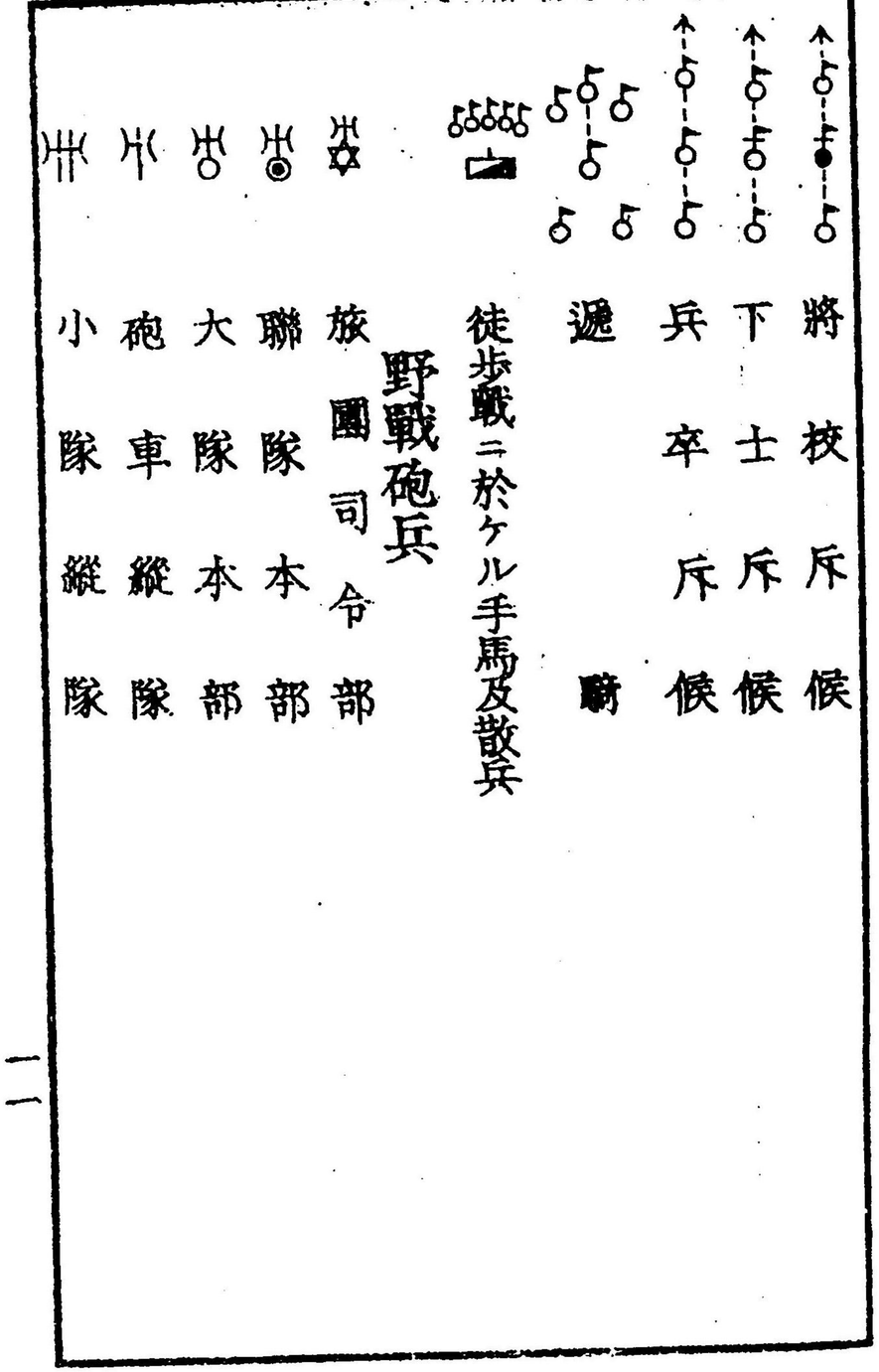
旅團司令部
聯隊本部
大隊本部
行軍縱隊
縱隊横隊
大隊縱隊
重複縱隊

横隊
中隊縱隊
散兵
歩卒
將校斥候
下士斥候
兵卒斥候

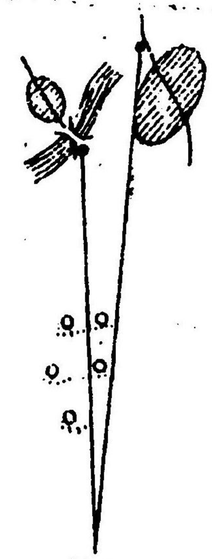
12 9 III/2 11 10

歩兵第二聯隊第三大隊戰鬪ノ爲メ展開セル一例


1/3
5/2
2/3
歩兵第二聯隊第五中隊戰鬪ノ爲メ展開セル一例
假繃帶所
騎兵
旅團司令部
聯隊本部
行軍縱隊
中隊ノ横隊
中隊ノ縱隊
小隊ノ横隊
分隊
騎
卒


將校斥候
下士斥候
兵卒斥候
遞騎
徒歩戰ニ於ケル手馬及散兵
野戰砲兵
旅團司令部
聯隊本部
大隊本部
砲車縱隊
小隊縱隊

中隊ノ横隊
中隊ノ攻列
小隊ノ横隊
小隊ノ攻列
砲
段列ノ行進
段列ノ集合



主要ナル射線（點線ノ部ハ通視ヲ遮蔽スルモノ）

工兵

大隊本部
行軍縱隊
中隊ノ横隊
中隊ノ縱隊

右ノ外ハ歩兵ニ準ス

行李及師團輜重

小行李ノ行進
小行李ノ集合
大行李ノ行進
大行李ノ集合

架橋縱列ノ行進

架橋縱列ノ集合

彈藥大隊本部

輜重兵大隊本部

衛生隊

衛生隊開設セルモノ

野戰病院

野戰病院開設セルモノ

縱列(架橋縱列ヲ除ク)若ハ輜重梯隊ノ行進

縱列(架橋縱列ヲ除ク)若ハ輜重梯隊ノ集合

馬廠

馬廠ノ行進

野戰電信隊

前哨

騎兵 歩兵 單哨

複哨

三人哨

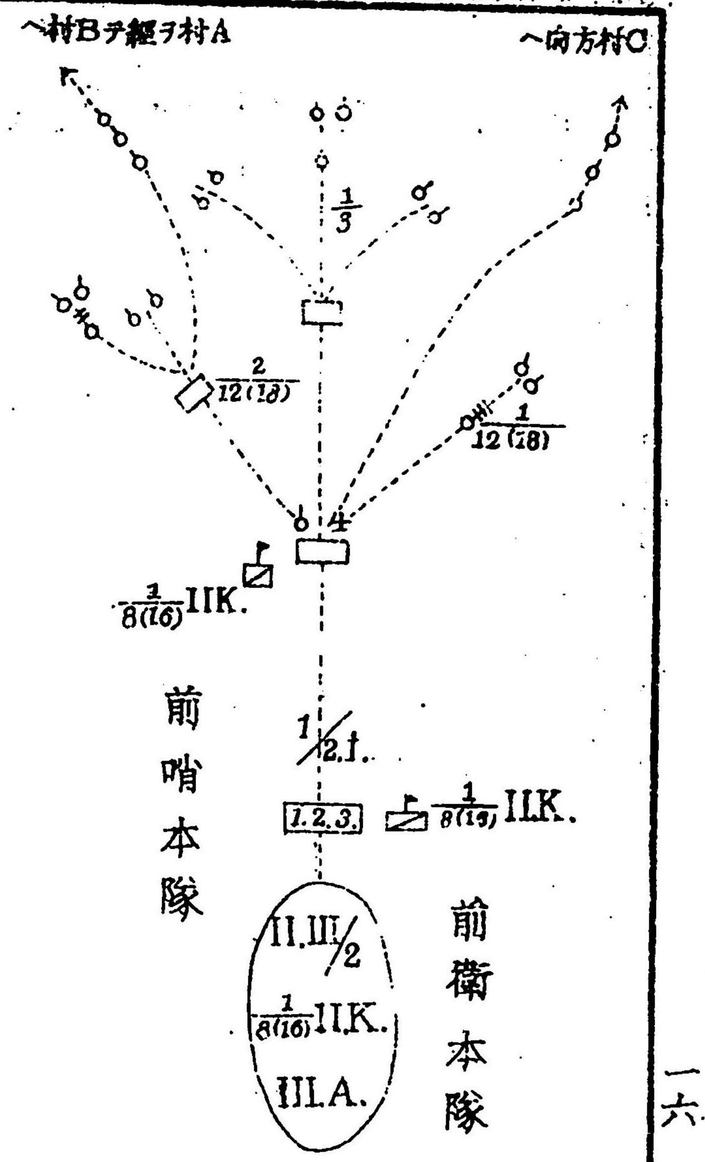
査哨

下士哨

獨立下士哨

小哨控兵若ハ前哨中隊、前哨本隊

前哨配置圖例



宿營

前哨本隊

前衛本隊

舍營ハ其區域ノ周圍ヲ太キ實線ニ畫キ而シテ内部(已ムヲ得サレハ外側)

二隊號ヲ記ス

歩兵第二聯隊ノ舍營

歩兵第三大隊ト騎兵第一中隊ノ半小隊ノ舍營

野戰砲兵第二中隊ト工兵第一中隊ノ一小隊ノ舍營

村落露營ハ宿營セル村落ヲ含有スヘキ矩形若ハ多角形ヲ畫キ内部ニ(已ムヲ得サレハ外側)隊號ヲ記ス

III/2.i.

歩兵第二聯隊第三大隊ノ村落露營

露營ハ隊形ニ比例セル矩形(正面ノ一邊ヲ著シク太クス)内ニ(已ムヲ得サレハ外側)隊號ヲ記ス

II/1i

歩兵第一聯隊第二大隊ノ露營

幕營ハ隊形ニ比例セル二重矩形(正面ノ一邊ヲ著シク太クス)内ニ(已ムヲ得サレハ外側)隊號ヲ記ス

II/1.A

野戰砲兵第一聯隊第二大隊ノ幕營

警急舍營スル時ハ其傍ニ註記ヲ以テ示スヘシ

A.P.

警急集合場

A.P.

警急大集合場

G.A.P.

糧秣分配所

G.A.P.

彈藥分配所

飲馬場

馬繋場

行李及輜重ノ車廠

兵站

兵站監部	
兵站司令部	
同出張所	
後備歩兵	隊號ヲ示ス數字ハ野戰隊ニ同シ又諸種ノ隊形モ之ニ準ス兵站部外ニ使用セラルヽ時モ亦此隊標ヲ用ユ
後備騎兵	
後備砲兵	
後備工兵	
鐵道隊	
輜重監視隊	

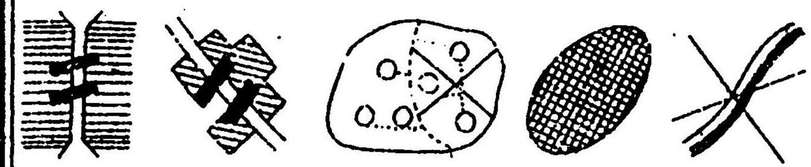
野戰兵器廠	
彈藥中間廠	
倉庫	
衛生豫備員	
衛生豫備廠	
兵站病院	
戰地定立病院	
患者療養所	
患者輸送部	
野戰郵便局	
兵站電信隊	

電信豫備員
電信豫備廠
停車場司令部
碇泊場司令部
水上輸送路
豫備馬廠
兵站病馬廠

工作

散兵壕

肩墻
野堡
砲臺
鹿柴
鐵條網
破壞シタル橋梁



破壞シタル道路

燒キタル村落

伐截シタル森林

道路及橋梁ノ阻絶

F.S. Ms. Sf. M. H. K. F.A.

要塞ノ部

略字

要塞砲兵又ハ徒步砲兵

加農

榴彈砲

臼砲

速射砲

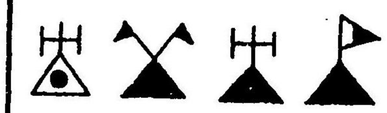
機關砲

要塞衛生隊

數字ノ規定

要塞砲兵又ハ徒歩砲兵聯(大)(中)隊ノ番號ヲ表示スル爲メノ數字ノ規定ハ歩兵ニ準スルモノトス例ヘハ其要塞砲兵聯隊ノ第一大隊ハ I.F.A. 第二中隊ハ 2.F.A. 徒歩砲兵第二聯隊ノ第二大隊ハ II/2.F.A. 第五中隊ハ 5/2.F.A. ヲ以テ表示スルカ如シ

隊標



要塞司令部又ハ攻城軍(團隊)司令部

砲兵司令部(此ニ砲兵司令部ト稱スルハ最高級砲兵指揮官ノ所在ヲ指示スルモノトス)

工兵司令部(此ニ工兵司令部ト稱スルハ最高級工兵指揮官ノ所在ヲ指示スルモノトス)

地區(獨立堡壘)砲兵司令所(此ニ地區(獨立堡壘)砲兵司令所ト稱スルハ地區(獨立堡壘)砲兵長ノ司令所ヲ指示スルモノトス)又ハ徒歩砲兵聯隊本部

要塞砲兵大隊本部、徒歩砲兵大隊本部

地區司令部(此ニ地區司令部ト稱スルハ地區司令官ノ所在ヲ指示スルモノトス)ヲ表示スルニハ旅團司令部、歩兵聯(大)隊本部又ハ地區砲兵司令所ノ符號ニ小旗ヲ附ス

例ヘハ地區司令官歩兵旅團長ナル時ハ 歩兵聯隊長ナル時ハ 地區砲兵長ナル時ハ ヲ以テ表示スルカ如シ

地區(獨立堡壘)又ハ聯隊觀測所

砲臺群又ハ大隊觀測所

砲臺觀測所又ハ中隊觀測所

砲臺又ハ中隊觀測所ハ其位置砲臺ト離隔セサル時ハ之ヲ省畧スルコトアリ

海岸監視哨

海軍望樓

要塞監視哨

野戰重砲兵中隊ノ集合ヲ示スニハ□ノ中ニ其砲種ニ應スル符號ヲ記スルモノトス例ヘハ十五、榴ヲ有スル野戰重砲兵第一中隊ノ集合ハ 1.S.A. ヲ以テ表示スルカ如シ

野戰重砲兵中隊ノ行軍縱隊ヲ表示スルニハ戰砲隊ハ單ニ其砲種ニ應スル符號ヲ記シ中隊段列ハ□ノ上ニ其砲種ニ應スル符號ヲ附加ス例ヘハ十五、榴ヲ有スル野戰重砲兵第一中隊ノ行軍縱隊ハ 1.S.A. ヲ以テ示スカ如シ

此他某種火砲一單位(一砲臺分)ノ集合及運搬ヲ示ス時モ亦之ニ準ス

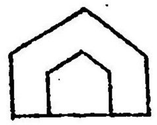
例ヘハ十五、臼四門ノ集合ハ図ヲ以テ示スカ如シ

火砲ヲ有セサル要塞砲兵又ハ徒步砲兵ノ集合及行軍ヲ表示スルニハ集合ノ爲ニハ□、行軍ノ爲ニハ□ノ隊標ヲ用ヰ其傍ニ隊號ヲ附記スヘシ

要塞衛生隊

要塞衛生隊ノ開設セルモノ

工事兵備及配備


永久堡壘

半永久堡壘

砲種ハ↑↑ヲ以テ十珊米加農、二十珊米加農ヲ●—⊙ヲ以テ十珊米榴彈砲二十珊米榴彈砲ヲ—⊕—⊕ヲ以テ十珊米臼砲二十珊米臼砲ヲ↑●ヲ以テ機關砲ヲ表示シ其他ハ之ヲ基準トシテ左ノ例ニ準シ表示スヘシ

區分 / 口徑	加農	榴彈砲	臼砲
c.m 7	↑		
c.m 8	↑		
c.m 9	↑		⊕
c.m 10,5	↑		
c.m 12	↑	●	
c.m 15	↑	●	⊕
c.m 21	↑		⊕
c.m 24	↑		
c.m 27	↑		
c.m 28		⊙	

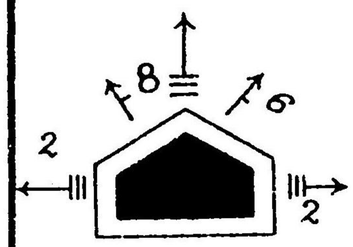
同砲種ニシテ單發ト連射トノ二式アルモノハ速射式ノモノニSbノ略字ヲ附シ之ヲ區別スヘシ山砲ハGノ畧字ヲ附シ野砲ト區別スヘシ

口徑六珊米以下（六珊米ヲ含マス）ノ火砲ハ機關砲ノ符號ヲ記シ其側方ニ口徑ヲ附記スヘシ

例ヘハ五十七密米速射砲ハ ↑57.Sb. ヲ以テ示スカ如シ

砲數ヲ示スニハ亞刺比亞數字ヲ以テ砲種符號ノ側方ニ附記ス但シ砲數四門ナルトキハ之ヲ省略スルヲ得

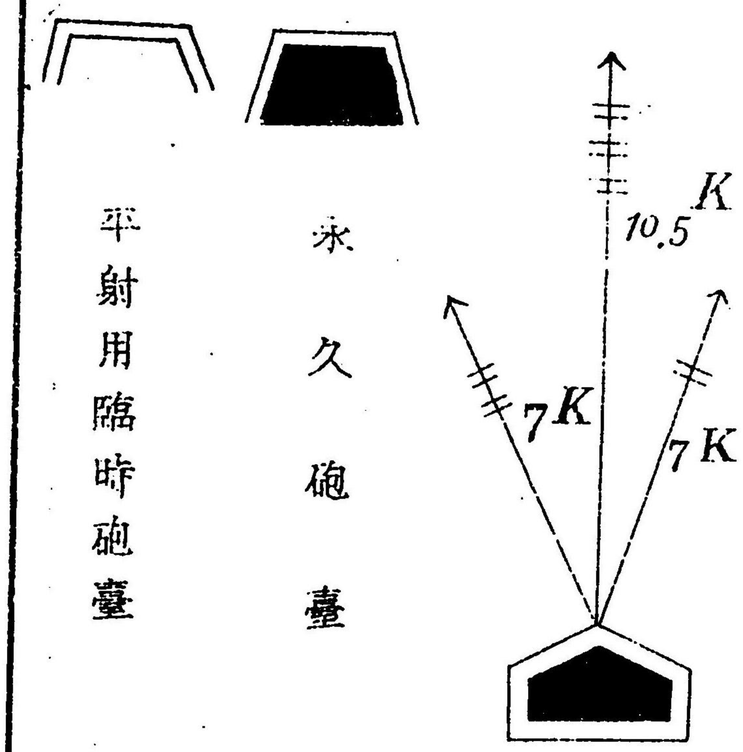
堡壘ノ兵備及守備隊ヲ表示スルニハ左ノ例ニ據ル



2 / 1.i

12F.A

又堡壘ノ兵備ヲ表示スルニ左ノ例ニ依ルコトアリ。

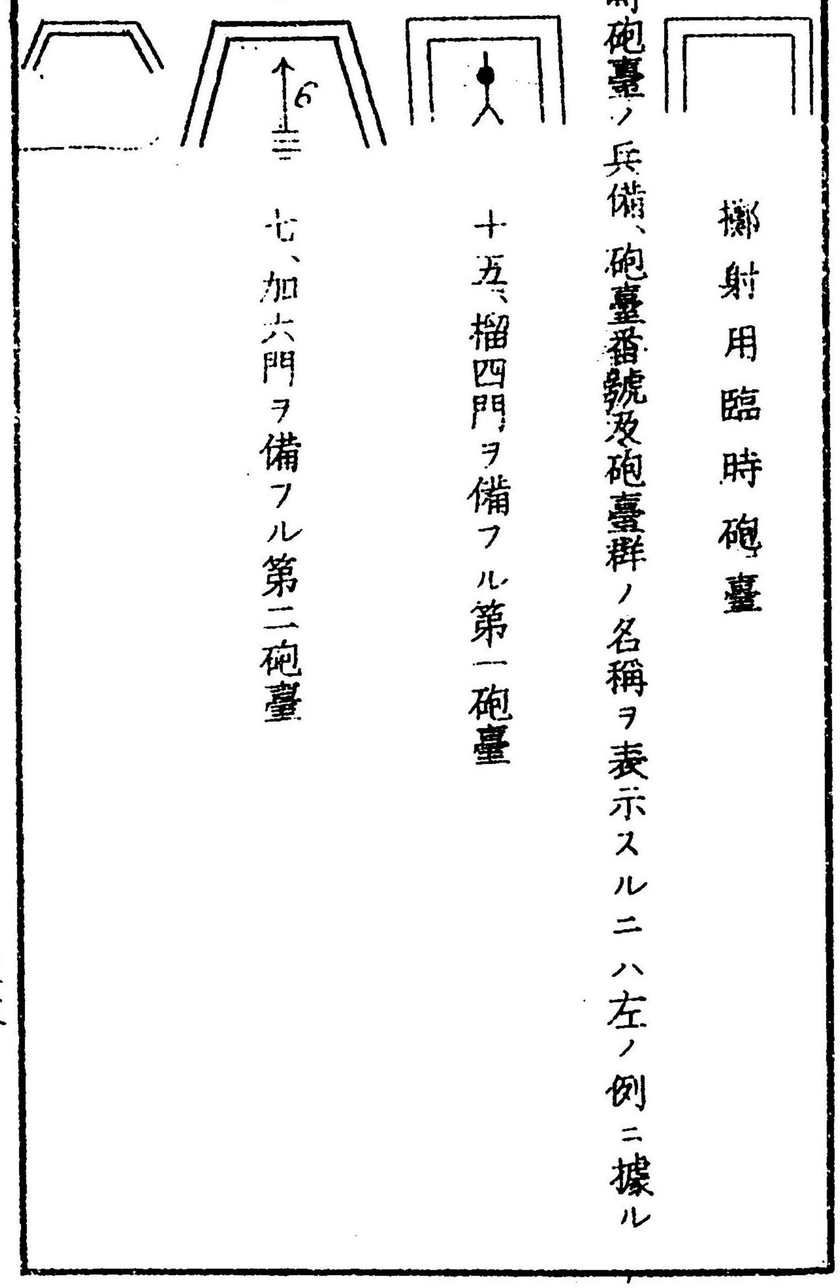


永久砲臺

平射用臨時砲臺

擲射用臨時砲臺

臨時砲臺ノ兵備、砲臺番號及砲臺群ノ名稱ヲ表示スルニハ左ノ例ニ據ル



十五、榴四門ヲ備フル第一砲臺

七、加六門ヲ備フル第二砲臺